

會見要録第一回

三月二十日午後三時
馬関藤野樓上ニ於テ

李鴻章以下當日午後三時會見所ニ到著シ階下
休息室ニ於テ小憩ノ後階上會見室ニ入りタル
ハ定時ヲ過クルコト凡ソ五分時ナリシ李ハ猶
志壯氣銳ト雖モ其老衰ノ状甚シキヲ見ル伊藤
伯等ハ李以下ニ握手ノ禮ヲ施シ各々ニ坐席ヲ
與フ彼我出席官氏名左ノ如シ

全權辦理大臣伯爵伊藤博文

頭等全權大臣等前齋李鴻章

全權辦理大臣子爵陸奥宗光

參議官

李經方

内閣書記官長

伊東巳代治ニ參贊官

羅豐祿

外務書記官

井上勝之助ニ參贊官

伍廷芳

外務大臣秘書官

中田敬義ノ參贊官

馬建忠

外務省翻譯官

陸奥廣吉

東文翻譯官

盧永銘

榎原陳政

東文翻譯官

羅庚齡

伊藤伯(李ニ對シテ)

數日ノ航海起居恙ナカリシ

ヤ否

李伯

幸ニ老健顧ミレハ閣下ト天津ニ會晤

シタル已來殆ント十年ニ及ヒ其間閣下ハ貴

國ノ為ニ心思ヲ勞シ殊功ヲ樹テラレタルモ

余ハ何等我國ノ為ニ盡カスル所ナク齡徒ニ

MT

MT

邁ミ標權用ナキニ至ラントス余ハ往テ懐ヒ
来テ想ヒ轉々慚愧ニ堪ヘサルモノアリ

伊藤伯 閣下ノ稱讚ト謙辞トハ實ニ過キタリ
李伯 今回ノ航海ハ幸ニ天候穩カナリシヲ

以テ極メテ適快ナリシ唯タ一日ノ暴風ニ逢
ヒテ二十四時間榮城湾ニ止マリタルノニ若
シ榮城湾ニ止マルコトナクンハ一日早著シ
タラン

伊藤伯 何地ヨリ乗船セラレタルカ天津ヨリ
カ

李伯 然リ天津碼頭ヨリ乗船シタリ此地著
到ノ後豫テ余等ノ為ニ丁寧準備セラレタル
ヲ聞ク感荷何ソ堪ヘン

伊藤伯 當初他ヲ撰擇セントシタルモ今日ノ
際ナレハ多少ノ不便ヲ忍ヒ双方會合ニ便宜
ナルヲ專トシテ此地ヲ撰定シタルナリ既ニ
目撃セララル、如キ僻地ナレハ定メテ不便多
カラント雖モ請フ諒恕スル所アレ

李伯 山水秀絶此ノ如キ好適ノ地ヲ撰擇セ
ラレタルヲ多謝ス

MT

MT



伊藤伯 他事ハ摺キ先ツ互ニ全權委任状ヲ照
査セント欲ス

(此時李鴻章ハ首肯シテ其齎ス所ノ黃絹ノ
包ヲ解キ黃龍ヲ畫ケル箇中ニ蔵メタル委
任状本書ニ英譯文ヲ添ヘテ伊藤伯ニ手渡
シ伊藤伯亦恭シク錦袋ヲ解キテ委任状本
書ニ英譯文ヲ添ヘテ李鴻章ニ手渡シセシ
レ伊藤伯ハ李鴻章ノ委任状ヲ陸奥子ニ示
サレ李鴻章ハ我委任状ノ英文ヲ李經方^方羅
豈祿ニ示シ邦文ヲ盧永銘ニ示シ低語ニ三
ス具双方ノ委任状本書左ノ如シ

MT

MT

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル
 大日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
 朕大清國トノ平和ヲ回復シ將來ノ友誼ヲ保維
 スル為メ茲ニ信任スル所ノ内閣總理大臣從ニ
 位勳一等伯爵伊藤博文外務大臣從二位勳一等
 子爵陸奥宗光ノ材能敏達ニシテ忠誠公ニ奉シ
 勤慎事ニ從フヲ以テ特ニ全權辦理大臣ニ簡命
 シ委スルニ各別ニ又ハ共同シテ清國ヨリ特派
 スル所ノ全權大臣ト會同協議シ便宜事ヲ行ヒ
 媾和條約ヲ締結シ之ニ記名調印スルノ全權ヲ
 以テス而シテ其ノ議定スル所ノ各條項ハ朕親
 シク檢閲ヲ加ヘ其妥善ナルヲ認メタル後之ヲ
 批准スヘシ
 神武天皇即位紀元二千五百五十五年明治二十
 八年三月十五日廣島行在所ニ於テ親ヲ名ヲ署
 シ璽ヲ鈐セシム

御名 御璽

内閣總理大臣伯爵伊藤博文副署

MT

MT

2-0067



820058

大清國大皇帝敕諭現因欲與大日本國重敦睦誼
特授文華殿大學士直隸總督北洋大臣一等肅毅
伯李鴻章為頭等全權大臣與日本國所派全權大
臣會同商議便宜行事定立和約條款予以署名畫
押之全權該大臣公忠體國夙著勤勞定能詳慎將
事締結邦交不負朕之委任所定條款朕親加查閱
果為妥善便行批准特敕

內
閣

MT

2-0067



(委任状ノ交換此ニ終リ談暫ク絶テ後々)

李伯

余ハ開談ノ初一片一覺書ヲ提出スル

ノ必要ヲ認メ乃チ漢英西文ヲ以テ筆シ今羅
量祿ヲシテ英文ヲ朗讀セシメンコトヲ望ム

閣下幸ニ許諾セラル、カ

(此時伊藤伯直ニ許諾セラレ羅量祿起テ之
ヲ朗讀ス漢文ハ即チ末ニ附スル如クナル
カ英文ノ譯意ハ左ノ如シ)

清國皇帝陛下、特命全權大使ハ平和談判
ヲ開クノ初ニ當リ其條約トシテ兩國休戦
ヲ承諾シ或ル一定ノ時期ノ間直ニ之ヲ施
行シ其時期ノ間ハ全然水陸ノ交戦ヲ停止
スルコトヲ茲ニ提議ス

本大使此提議ヲ為スニ於テ數月前之レト
同一ノ議ヲ在北京及東京米國公使ヲ經テ
提出シタルトキ日本政府ハ西國全權大臣
開談ノ際宜ク商議スヘキモノナリト思考
スル旨言明セラレタル事實ヲ記憶セラレ
ンコトヲ冀望ス

本大使ハ永久ノ平和友誼ノ回復ニ付キ商

MT

MT

820060

議調印スルノ全權ヲ有シ又本大使ハ今回
ノ使命ヲ承ケタル重要ナル目的ヲ達スル
ノ誠意ヲ有ス而シテ此商議ヲシテ有効ナ
ラシムルノ前立約休戦スルノ最モ必要ナ
ルヲ信ス

内

閣

MT

2-0067

0012

(右漢文)

大清欽差頭等全權大臣現於開議和約之始擬請
西國水陸各軍即行一律停戰以為彼此議商和
約條款地步數月以前此議已由美國駐紮北京
大臣電達美國駐紮東京大臣轉商

貴國政府當接電覆須俟西國大臣聚會時方能將
如何停戰議和言明今本大臣奉有定立和約署
名畫押之全權誠願不負

朝廷所委重任用特重申前議以為所請停戰一事
乃議成和款第一要義理合聲明並請

見復

內

閣

MT

MT

2-0067

820062

伊藤伯 此覺書ニ對シテハ別ニ答酬スル所ア
ラン閣下ハ余等ノ承ケタル委任状ヲ以テ満
足セラル、カ

李伯 尤モ正式ニ協ヒ此ノ遺憾ナシ俾レ余
一委任状ヲ畧ク同一ナレ、閣下亦満足セラ
ル、カ

伊藤伯 然リ唯々其果ナル點ハ余等ノ有スル
委任状ニハ我皇上ノ御親署アルモ閣下ノ委
任状ニハ單ニ國璽ヲ鈐セラレタルノミニシ
テ親署ナレハ一ノ缺典トス

李伯 我清國ノ例ハ國璽ヲ鈐スルノミニテ
足レリトス即チ他國ノ親署ト同一効力ヲ有
ス凡ソ我國ヨリ他國ニ使臣ヲ簡派スルニ當
リ其委任状ニハ國璽ノミヲ用ヒ親署ナキハ
恒例ナリ或ハ異日貴國ノ如ク進歩セハ親署
スルニ至ランモ知ルヘカラスト雖モ仍ホ幾
多ノ歲月ヲ要スヘシ

李伯 (後送) 此トモ
は國ノ例ナリ
伊藤伯 余今中華行状
論難スリ故ハストモ又抑
は國ノ例故他國ノ例ニ準
格ニシテナレバカ
李伯 此例ハ例ニシテハ
不主ニ行ヒテ其典
例ニ準フコトナクハ
伊藤伯 此例ハ例ニシテハ
不主ニ行ヒテ其典
例ニ準フコトナクハ

MT

MT

2-0067

00:14

望任伯 前回は即座に

其の意を全く承知せしむるに由り
其の意を全く承知せしむるに由り
其の意を全く承知せしむるに由り
其の意を全く承知せしむるに由り
其の意を全く承知せしむるに由り
其の意を全く承知せしむるに由り
其の意を全く承知せしむるに由り
其の意を全く承知せしむるに由り

820063

日貴政府ニ在テ官位名望最モ高キ人必ス十
分時務ヲ洞察セラレタラント雖モ余等ノ先
ツ聞カント欲スルハ貴國誠ニ和ヲ乞フニ切
ナルヤ否ヤニ在リ

李伯 我政府カ和ヲ乞フニ切ナルハ余ヲシ
テ此使臣タラシメタルノ一事實ヲ以テ證明
スルニ餘アリト信ス余ハ此顯著ナル事實ヲ
措キ我政府ノ和ヲ欲スルニ急ナルノ意ヲ表
明スルヲ知ラサルナリ余亦其誠意ヲシ
馬ソ此使命ヲ奉シ遠ク此地ニ前來センヤ

閣下ニ微衷ノ存スル所ヲ諒察セヨ
余ハ閣下ト旧アレハ公ニ於テモ私ニ於テモ
誠ヲ用テ談話センコトヲ欲ス閣下亦同一ノ
感懐ヲ以テ余ヲ遇セラレンコト余ノ切望ス
ル所ナリ

伊藤伯 余ハ素ヨリ閣下ト共ト重責ヲ負フテ
此大任ニ當ル以上ハ閣下ノ意ヲ諒シテ誠實
談判スル所ナリ
閣下ノ尊意謝スルニ餘アリ抑々貴我
兩國ハ東洋ニ於ケル二大國ニシテ人種文物

MT

MT

2-0067

00:5

相同シク利害ノ関係亦尤モ切ナリ而シテ貴
 國ハ近年非常ノ長足ヲ以テ進歩シ今ヤ泰西
 各國ノ伍伴ニ入ラレ真ニ羨望ニ堪ヘス然レ
 トモ我國ハ閣下ノ熟知セラル、如ク其改善
 シ要スヘキモノ多々ナルニ拘ラス常ニ意ノ
 如クナラサルモノ十二八九ニ居ル我國ハ貴
 國ト提携^提シテ共ニ其進歩ヲ謀リ以テ泰西日
 新ノ文化ト其衝ヲ競ヒ自哲人種ノ東侵ヲ防
 遏スルコソ兩國ノ志望ナルニ因ラサリキ一
 朝和破レテ鋒ヲ交ユルニ至リタルモ幸ニ平
 和ヲ回復スルヲ得ハ或ハ兩國ノ交誼ハ前日
 ヨリモ一層輯睦トナラン余ハ黄色人種タル
 貴我兩國カ東洋ニ於ケルニ大強國トシテ永
 ク歐米ト對^時センコトヲ切望ス換言スレハ
 余ハ今日ノ不幸ヲ一轉シ當ニ兩國ノ平和ヲ
 回復スルノミナラス寧ロ兩國深交ノ基礎ヲ
 ラシメンコトヲ欲スルモノナリ

伊藤伯 余ハ先年閣下ト天津ニ相見タル時ニ
 於テ貴國ノ現勢ヲ察シ其進歩改善ノ必要ヲ
 説キタルハ閣下ノ今猶記臆セラル、所ナラ

MT

MT

ン然ルニ爾来貴國ハ旧ニ依リテ晏如亦一ノ
進歩改善ヲ企圖セラレヌ而シテ今日偶々西
國事アルニ至リタルハ余ノ深ク遺憾トスル
ナリ

李伯 今更慚愧ニ堪ヘス余ハ閣下カ貴國ノ

為ニ偉業ヲ成就セラレタルカ如ク我國ノ為

ニ微力ヲ致ス能ハサリシハ遺憾比ナシ然レ

トモ我國ハ改善ヲ要スルモノ多クナルニモ

拘ラス苟モ二十省ヲ有スル尅大國ナレハ貴

國カ僅少年月ノ間ニ異常ノ進歩ヲ為シタル

如キノ結果ヲ望ムヘカラサルハ當時余カ明

言シタル所想ヲニ閣下亦胸臆ニ記セラレン

余ハ常ニ志望ノ伸ヒサルヲ憾ムト雖モ亦一

日モ憂懐ヲ棄テス唯々積勢情弊ニ制セラレ

テ曠ク今日ニ至レリ

余ハ今回ノ交戦ニ於テ却テ二箇ノ好結果ヲ

見ルニ至ランコトヲ此ニ自白セサルヲ得ヌ

即チ一ハ東洋ニ於ケル一強國タル日本カ今

即チ一ハ東洋ニ於ケル一強國タル日本カ今

陸海軍ノ力ヲ實際ニ證明シタルコト他

A

MT

B

MT

下。日本ノ非常ナル進歩ハ我國ヲ警醒スル
 ニ足リ我ノ長夜ノ夢ハ貴國ノ打撃ノ為ニ破
 ラレ是レヨリ大ニ覺醒スルノ段階トナルハ
 キコト是レナリ余ハ時ニ應シ機ニ觸レ奏議
 意見諫言ヲ上リタルモ貴國ニ於ケル如ク其
 効果ヲ收ムル能ハサリシハ余ノ殊ニ遺憾ト
 スル所ナリ余ノ襟懷實ニ此ノ如ク一點怨嗟
 ノ念ナク却テ貴國ニ向テ謝_セントスト雖モ
 我國人ノ多數ハ貴國ヲ怨望スルコト甚シキ
 ハ事實ナリ然レトモ我政治社會具眼ノ士ハ
 必ス今日ノ大敗ニ鑒ミテ将来覺醒スル所ア
 ルヘキハ亦余ノ竊ニ想察スル所若シ夫レ西
 國ノ平和ヲ克復シ互ニ輔車唇齒ノ關係ヲ以
 テ國家ノ進運ヲ促シ永ク東洋ノ平和ヲ保持
 ルヲ得_庶幾クハ兩國ノ志ヲ成スニ足ラン而シ
 テ貴我兩國ヲ外ニシテ東洋何レノ邦國カア
 ランヤ我國老大ト雖モ貴國ノ如ク陸海軍シ
 完全ニシ以テ我無盡蔵ヲ開發スルトキハ貴
 國ノ文化ト相待テ白哲人ノ慾望ヲ抑止スル
 ニ足ルハシ

MT

MT

伊藤伯 皇天公平勤ムル者ニ酬ユ貴國若シ大

ニ勤ムルアラハ何ソ其賞ナカラシヤ

李伯 余ハ貴國ノ^社東^社跡ヲ踐ミテ我國ノ進歩

ヲ謀ラントスルノ意切實ナルモ如何セン齡

既ニ古稀ヲ越エ到底閣下ノ偉業ヲ學フノ餘

年ナキヲ遺憾トス

伊藤伯 我國ノ進歩ハ一ニ我皇上ノ御威徳ニ

依リ決シテ余等ノ力ニアラス

李伯 貴^國皇帝陛下ノ聰明睿智ニ渡ラセラレ

常ニ御心ヲ國事ニ傾ケサセ玉フコトハ傳承

仰敬スル所然レトモ亦陛下ノ鴻業ヲ輔翼ス

ルノ賢宰相ナカルヘカラス閣下ハ現ニ陛下

ノ御信任ヲ忝クシ總理大臣トシテ輔弼ノ大

任ニ當ラル余ハ明君賢相相待ケテ國運ノ隆

昌ヲ致スヲ疑ハス

伊藤伯(話頭一轉シ)閣下ハ仍ホ本船ニ止ルヲ欲

セラル、カ

李伯 否余ハ貴方ニ於テ鄭重^ニ設備セラル、

所アルヲ聞キ早速上陸羈宿シ以テ厚意ヲ空

クセサランコトヲ欲ス

MT

MT

伊藤伯 然ラハ何日頃上陸セラル、カ

李伯 余ハ明日血午前時ヲ以テ上陸セントス

(此時彼我列席負中送迎手順等ノ打合せアリ)

伊藤伯 次會ノ會合ハ何日ヲ以テスヘキカ

李伯 唯タ貴方ノ便宜ニ任セン余ハ何日ニテモ異議ナシ

伊藤伯 然ラハ明日午後二時十分ヨリ會合スルコト、セン

李伯 午前十時ニ上陸スルナレハ午後二時三十分ニ參會スルトニ決意セシタリト奉_レテ余ハ幸ニ

閣下ト旧アルヲ以テ苟モ其思フ所ハ胸底ニ秘セスシテ貴聽ニ達スヘケレハ閣下亦此ノ

隔意ナク十分好意ヲ開示セラレンコトヲ希望ス余老軀ヲ以テ此導此般ノ重任ニ當ル閣下若

シ積年ノ舊誼ヲ捨テスンハ願クハ余カ苦悩ヲ諒シ余ヲシテ此ノ使命ヲ全フセシメラレ

ンコトヲ悃請ス

伊藤伯 貴意ヲ領セリ(微笑シツ)中堂老健加フルニ長幹豊肉余ハ閣下ノ重責大任ヲ負フ

MT

MT



ニ是ラルハ疑ハス

李伯

亦微笑シ

閣下ノ體軀余ヨリ小ト雖モ

精力其力満身其力充實其力不余其力老朽ト同日ノ談ニカ

ヲス余ハ閣下其力カ貴國其力ニ於ケル如ク我國其力ニ為

ニ微力ヲ盡シ其力コトヲ冀フモ最卑其力殘年多カラ

サルヲ信ス今ニシテ往ヲ懐ハハ寧口慙死ス

ヘキナリ事卒爾ニ涉ルモ閣下ノ年齢幾何カ

幸ニ知ルシ得ルカ

伊藤伯

余ハ五十有五ニシテ閣下ヨリモ幼キ

コト凡ソ十八ナリ

内 答

李伯

假令志壯ニシテ氣銳ナリト雖モ余ノ

天壽ハ知ルヘキノミ亦何シカ為シ得ン

伊藤伯

閣下ノ健康ヲ以テセハ猶ホ永ク貴國

ノ為ニ盡瘁スルヲ得ラルヘシト信ス

李伯

厚意多謝ス閣下ハ陸奥子ト同宿セラ

ルカ

伊藤伯

否各々別ナリ

李伯

貴皇帝陛下ハ今尚ホ廣島ニ御駐蹕ア

ラセラルカ

伊藤伯

然リ昨年九月十三日東京ノ皇宮ヲ出

MT

MT

テサセ玉ヒタル以来六龍ヲ廣島ニ駐メサセ
玉ヒ陸海軍事ハ勿論内外一切ノ政務ヲ親裁
シ玉フ

李伯 貴皇帝陛下ノ聰明ニ渡ラセ玉ヒ親ク
國事ヲ見玉フニ御勵精ナルコトハ夙ニ傳承
スル所閣下モ近來非常ノ多忙ナルヘシ

伊藤伯 然リ近來非常ニ整劇ナリ或時ハ廣島
ニ或時ハ東京ニ内外一切ノ政務ヲ見サルシ
得ヌ

李伯 當馬関ニ於テハ世界各國ト自由ニ往
復スルヲ得ルカ
閣

伊藤伯 煮ヨリ然リ

李伯 余等到著ノコト及會見ノ要旨ヲ本國
政府ニ打電センコトヲ欲ス幸ニ許サルカ
伊藤伯 閣下ノ要求ナレハ特ニ許諾スヘシ先
般張邵二氏ノ來朝ノ時ハ許諾セサリシ

李伯 尊意多謝ス張邵二氏委任ノ不完全ヨ
リ彼ノ如キ失體ヲ招キタルハ余ノ慚羞スル
所畢竟彼レ二人ハ外國ノ事例ニ疎キ者ナリ
伊藤伯 閣下ハ張邵^氏以テ外國ノ事例ニ疎シ

MT

MT

ト云ハル、モ張氏ハ永ク米國ニ公使タリシ
ニアラスヤ(李經方語ヲ挿テ曰ク張氏尋常ノ
公使タリシノミ今回ノ如キ大任ヲ負フテ外
ニ使シタルコトナシト)

伊藤伯(伍廷芳ヲ目シテ)張邵二氏ノ失敗ハ究竟
スルニ此人ノ過ニ坐スヘシ(此時伍廷芳報然
李伯^共笑一番ス李經方ハ伍廷芳ノ為ニ辯シ
テ曰ク伍氏ハ單ニ天津ヨリ同伴ノ命ヲ得タ
ル^能ニシテ委任事項ノ如キハ伍氏ノ與知
セサル所ナリシト)

内閣

伊藤伯 與知スルト否トヲ論セス同伴シタル
已上ハ伍氏ノ責ハ到底免レ難シ

李伯 當時閣下ニ於テ専門的ノ異論ヲ主張
セラレサレハ余ハ老軀ヲ以テ前來スルコト

ナカリシナラン

(伊藤伯トシテ)外務省専門的ノ事ヲ主トセサル所ナリ

伊藤伯 貴國ノ困難ノ事情ナルヲ余モ認メサ
シ^{使臣ノ力ニ依リテ}雖モ外ニ對シテハ各國普通ノ

例規ニ從ハル、ニ^非アササレハ迎接スルヲ得

サルハ閣下モ亦承認セラレサルハカラス

李伯 貴國ハ聰明睿智ナル皇帝陛下ヲ載キ

MT

MT

賢相朝ニ立テ輔弼ノ任ニ當ラレ國運隆々ト
雖モ我國ハ尾大掉ハス情弊彌蔓墮革ヲ施ス
ニ最モ困難ナリ

伊藤伯 然レトモ未タ國會ノ設ナケレハ治ム
ルニ却テ易キモノアラシ

李伯 我國ニハ國會ヨリモ更ニ困難ナル御
史アルハ閣下ノ了知セラル、所ナラン

伊藤伯 余曾テ天津ニ於テ閣下ト晤談シタル
トキ夫ノ御史ナルモノハ漢朝以來ノ古制寧
口害アルモ利ナキヲ以テ断然廢スルニ如カ

スト云ヒタルハ憶フニ閣下ノ猶記憶セラル
ル所ナラン

李伯 然リ然レトモ御史廢スヘシト云フノ
一言ヲ以テモ斬首ニ當ルヲ如何セン苟モ文

明思想ヲ有スル人ニト語ルトキハ我ニ多少
ノ補^補アリト雖モ暗愚時務ヲ見ルノ明ナキ人
々ニ對シテハ唯々悵然大息シテ止ムノ外ナ

シ抑、^{内閣}法蘭西治下ニ在ル者ニ對シテハ之ノ使スル法カ中央ニ在リ

陸軍^{陸軍} 袁世凱氏ノ近状如何

李經方 彼ハ^{湖南}湘南ニアリ

MT

MT

伊藤伯 貴國は僅かに
本國も其に使の(通)に
元々其國の(百用)ナリト思
ス(外)外(外)の(外)外
●(伊藤伯)の(通)に(外)外
一ノ(外)外
陸軍(袁世凱)の(通)に
(外)外(外)外
大島(外)外(外)外
伊藤伯 貴國は僅かに
本國も其に使の(通)に
元々其國の(百用)ナリト思
ス(外)外(外)の(外)外
●(伊藤伯)の(通)に(外)外
一ノ(外)外
陸軍(袁世凱)の(通)に
(外)外(外)外
大島(外)外(外)外

820073

陸奥子 依然其職ニ居ルカ

李伯 官名ハ帯フルモ現職ニハ在ラス

(談話暫ク絶ユ)

李伯 先刻貴覧ニ供シタル覚書ニ對シテハ

明日口頭ニテ酬答セラレタシ

伊藤伯 承知ス熟讀シ上復答スル所アルヘシ

口頭答ハ書面ニテ

(右ニテ當日談判終ル時ニ午後四時十五分)

MT

2-0067

0025

會見要録第二冊

MT

2-0067

0026

會見要録第二回

三月二十日午後
二時三十分

藤野接上於テ

當日彼我出席者官氏名左ノ如シ

全權辦理大臣伯爵伊藤博文 欽差頭等公權查書劉鴻章

全權辦理大臣子爵陸奥宗光 参議官 李經方

内閣書記官長 伊東巳代治 参贊官 羅豊祿

外務書記官 井上勝之助 参贊官 伍廷芳

外務大臣秘書官 中田敏義 参贊官 馬憲忠

外務省翻譯官 陸奥康吉 東文翻譯官 羅庚齡

公使館書記生 鄭永邦

(五ニ握手ノ禮ヲ施シ坐定マリテ後)

李伯 余ハ今朝上陸シテ豫備ノ旅館ニ投ス

ルコトヲ得タリ茲ニ貴方設備ノ鄭重ナルヲ

感謝シ且其場所ノ尤モ適好ナルヲ喜フ

伊藤伯 旅館狹隘ノ為メ定メテ不便多カラシ

乞フ姑ク忍ハレンコトシ

李伯 否十分ナリ余ハ貴方撰擇ノ至レルト

其接遇ノ甚々厚キヲ謝ス

陸奥子 本申ハ^{料理ニ巧シク者ク産物四ナセルモ}筆餐ヲ饗セシトシ既ニ其用意

ヲ整ハタル且貴方^{三杯ノ宴ニシテ}辭退セラレタルニ由

リ今ハ是非ナシ併シ為シ得ル限りハ便宜シ

MT

MT

謀ルハシ

李伯 厚意謝スルニ辞ナシ

伊藤伯 昨日閣下ヨリ提出セラレタル覺書ニ

對シ茲ニ具答文ヲ提出ス余ハ之ニ付スルニ

英漢文ヲ以テシタレハ先ツ英文ヲ朗讀スヘ

シ(此時伊藤伯自ラ英文ヲ朗讀セラルル邦文本

書ハ即チ左ノ如シ)

MT

大日本帝國全權辦理大臣ニ於テハ戰地ヲ距ル
コト遠遠ナル此地ニ在テ休戰ヲ約スルコトヲ
以テ媾和談判ノ妥局ヲ結フニ必須ノ要義ト視
做スコト能ハスト雖モ若シ兩國ニ向テ均等ノ
利便ヲ擔保スルニ足ル條件ヲ附スルニ於テハ
休戰ヲ肯諾スヘシ

大日本帝國全權辦理大臣ハ目下ノ軍事上ノ形
狀ヲ察シ併セテ彼我交戦ヲ中止スルニ因テ生
スル所ノ結果如何ヲ顧ミ左ノ條件ヲ附スヘキ

コトヲ聲述ス

日本國軍隊ハ太沽天津山海関并該處ニ在ル
城壘ヲ占領スル事

前記各處ニ在ル清國軍隊ハ一切ノ軍器軍需
品ヲ日本國軍隊ヘ引渡スヘキ事

日本國軍務官ニテ天津山海関間ノ鑛道ヲ支
配スル事

休戰期限間清國ハ日本國ノ軍事ノ費用ヲ負
擔スル事

若シ以上ノ條件ニシテ異議ナクハ休戰ヲ實行

MT

MT

行スヘキ期日其ノ期限日清西軍ノ經界線及其
他ノ細目ヲ直チニ提出スヘシ

大日本帝國全權辦理大臣ハ今茲ニ此ノ回答ヲ
為シ且ツ將來ノ誤解ヲ防クカ為メ曩キニ清國
政府カ休戦ノコトヲ提議セラレシニ當リテ帝
國政府ヨリ與ヘシ所ノ回答ハ大清國欽差頭等
全權大臣閣下カ稱セラル、カ如キ意義ニ非カ
リシコトヲ一言シ置クコト必要ナルヘシト思
惟ス當時帝國政府ニテ用ヒシ所ノ語言ハ左ノ
如シ

又假令日本政府カ休戦ヲ許諾スル場合アリ
トスルモ西國全權委員會合ノ上ニ非サレハ
日本國政府ハ右休戦ニ関スル條件ヲ明述セ
サルヘシ

MT

MT

(此時李伯ハ漢譯ヲ取テ熟読ス陸奥子語ヲ挿テ曰ク譯文ハ英文ヲ正譯トス故ニ漢譯ハ或ハ英譯ノ如ク明晰ナラサルモノアラシク羅豊祿氏譯讀ノ勞ヲ取ラル、ナラハ李伯ノ為ニ漢譯セラレタシト乃チ羅豊祿ハ英文ヲ手ニシテ逐一漢譯シ且ツ説明ヲ加ヘタリ其間李伯已下皆端然トシテ傾聴セリ)

李伯 余カ提出シタル休戦ノ懇願ニ對シ今貴政府ヨリ指命セラレタル條件ヲ按スルニ

天津太沽山海関ヲ占領スル等ノコトアリ然ルニ此レ等ノ場所ハ閣下ノ熟知セラル、如ク未タ貴國軍ノ威權ノ下ニ^在ルニ^非ラス故ニ貴國ニ於テ占領スト云ハル、ハ一時ノ保證ナリト解シ然ルハキカ

伊藤伯 蓋ヨリ然リ

李伯 尚ホ明確ニ貴諭ヲ乞ヒ度^キ、即チ休戦ヲ許諾セラル、ノ條件トシテ保證ノ為ニ一時占領セラル、ノ意ニシテ永久占領セントセラル、ニ^非サルヘシト云フ是レナリ

MT

MT

伊藤伯 然リ閣下ヨリ提議シテ休戦ヲ乞ハル
ルニ因リ我ハ之ヲ承諾スルニ付キ其保護ト
シテ一時台領セントスルナリ

李伯 太沽天津ニハ多数我兵ノ屯駐スルア
リ然ルニ貴軍ニ於テ之ヲ台領セラル、ニ於
テハ我兵ハ何地ニカ移送セサルヘカウサル
カ

伊藤伯 貴國兵ハ便宜ノ地ニ移送セラレサル
ヘカウサルコト論ヲ待タス

李伯 此レ等ノ場所ハ貴軍ヲ進メラル、ニ
内

於テハ我兵ト接近スルヲ以テ互ニ衝突ヲ避
クルノ方法ヲ講セサルヘカラス即チ萬一ノ
変ナカウシムル為ニ相當ノ距離ヲ設ケサル
ヲ得ス

伊藤伯 其レ等ノ細目ニ付テハ別ニ商議スル
所アルヘシ

李伯 天津ニハ兵營ノ外幾多ノ公署アリテ
諸般ノ政此地ヨリ出ツ若シ貴軍ニ於テ台領
セラル、トキハ公署ノ如キハ其儘ニ存置ス
ルヲ得ルカ以シク貴意ヲ示サレタシ

MT

MT

MT

820080

伊藤伯 其レ等詳細ノ事項ニ付テハ追テ十分
 商議スヘシト雖モ兎ニ角休戦ヲ乞ハル、ニ
 由リ大體ノ條件ヲ茲ニ指命シタルナリ今ハ
 其大體ノ條件ニ付キ閣下ノ諾否ヲ聞カンコ
 トヲ欲ス大體ノ事未タ決セサルニ越テ其細
 目ニ涉リ商議スルヲ得ス大體ノ事項決定セ
 ハ徐ニ細目ニ就キ商議スヘキナリ

李伯 貴方答文ノ旨意我ニ取リテ事頗ル重
 大ナリ余ハ十分考慮シ貴レ而ル後決答セン
 トス其考慮ニ先チ豫メ細目ニ涉テ貴意ヲ叩

MT

クハ我ニ於テ當然ノ順序トシテ諒察セラレ
 ンコトヲ望ム
 伊藤伯 貴意領セリ然レトモ我ハ閣下ノ提議
 ニ對シテ答復シタルナレハ唯々其答復ニ對
 シテ東閣下ノ決答ヲ待ツノ外ナシ

李伯 事體極メテ重大ナルヲ以テ余ハ十分
 考慮ノ上決答センコトヲ乞フ

伊藤伯 十分考慮セラル、ハ可ナリ然レトモ
 成ルヘク速ニ決答セラレサルヘカラス
 李伯 天津ノ如キハ閣下ノ熟知セラル、如

此レは東閣下ノ決答ヲ待ツノ外ナシ
 貴方ノ答文ニ對シテ余ハ十分考慮セラル、ハ可ナリ然レトモ成ルヘク速ニ決答セラレサルヘカラス

2-0067

0033

クハ^開港場ナリ然ルモ貴軍之ヲ占領セラル
ルニ於テハ直ニ之ヲ管治セラルヘキ事ヤ
伊藤伯 然リ

李伯 若シ閣下ノ指命ニ後フコト、ナリ例
ハハ天津ヲ貴國ニ遡與セハ貴軍ハ何レニ屯
駐セシメラル、カ

伊藤伯 閣下我ヨリ提出シタル條件ニ従ハ、
我兵ハ貴國兵ノ撤去シタル兵營ニ代リテ入
ルヘシ貴國兵營ニシテ猶狹隘ヲ感セハ新ニ
増築スルモ不可ナルナシ

李伯 ^(出築ニテ) 占領ハ幾何ノ期^限ナリ

伊藤伯 其レ等ハ休戰條約ノ約束時間ノ長短
ニ関スヘシ

李伯 休戰條約ノ期^限ハ閣下ヨリ示明セラ
ル、カ將々余ヨリ提議スヘキカ

伊藤伯 閣下ヨリ提議セラル、モ又我ヨリ提
議スルモ便宜ニ任スヘシ何レトモ双方ノ肯
諾ヲ經ヘキモノナリ唯々其期^限ハ短キヲ宜
シトス

李伯 假令休戰條約ニ於テ其期^限ヲ短クシ

MT

MT

スルモ貴方ノ指命セラル、天津、太沽、山海関ノ三要地ハ北京ノ咽喉ニシテ實ニ直隸ノ鎖鑰タリ若シ貴軍ニ於テ永ク此レ等鎖鑰地ヲ占領セラル、トキハ我ハ事實上殆ト一掃セラレタルモノニシテ宛然貴國ノ領土トナルノ感アリ是レ我カ為ニ尤モ重大ナル關係アリト云フ所以ナリ

伊藤伯 然レトモ休戦條約ノ期間ノ保證ニ過キス一旦平和條約成ルニ及テ即チ我兵ヲ撤回スヘキナレハ貴院ノ如キ憂慮ナカラシ

MT

李伯 既ニ昨日モ述フル如ク日清兩國ハ東洋ニ於ケルニ大國ニシテ其關係恰モ兄弟ニ異ナラス然ルニ不幸ニシテ兵馬ノ間相見ルコト、ナリタレハ余ハ老軀ヲ以テ貴國ニ使シ專心誠意休戦ヲ懇願スル為ニ一ノ提議ヲ試ミタルニ貴方ヨリハ休戦ノ條件トシテ此ノ如キ苛重ナル條件ノ指命アリ余ハ實ニ之ヲ實行スル能ハサルヲ憾トスト雖モ既ニ貴方ノ指命タル以上ハ十分考慮シテ後諾否ヲ明言スルノ外ナシ

MT

伊藤伯 素ヨリ事體重大ニ屬スレハ閣下カ考
慮セラル、為ニ適當ノ猶豫ヲ興フルハ余ノ
拒マサル所ナリ

李伯 貴諭ノ條件ハ畢竟我カ提議ニ對スル
モノナルカ猶他ニ指命セラルヘキ條件ナキ
カ將タ又此ノ示明ニ代フヘキ他ノ條件アラ
サルカ

伊藤伯 我ハ閣下ノ提議ニ對シ此條件ヲ以テ
其要請ヲ許諾セントスルノ意ヲ明ニシタル
ナリ若シ貴方ニ於テ他ニ代フヘキ條件アリ

トセハ貴方ヨリ確言セヨ閣下ハ我兵ノ進入
ヲ以テ憂虞措カサルカ如クナルモ今ハ現ニ
交戦中ナレハ我ハ何レノ地ヲ進撃スルモ素
ヨリ我ノ戦權ニ屬ス然リト雖モ既ニ貴國ヨ
リ切實ニ和ヲ請フト云ヒ而シテ之カ為ニ此
地ヲト相シテ會見スルコト、ナリタル以上
ハ或ハ其結果トシテ和約成ルコトアランモ
其平和條約カ兩國皇帝陛下ノ批准ヲ經ル
ニハ萬事未定ノ景況ニシテ其未定ノ時期ニ
於テ全部休戦スルコトハ極メテ難事トス況

素伯 貴方ニ對シテ
代フヘキ他ノ條件ナ
ト明ニセラルコトヲ
トスル所ナリ
伊藤伯 我カ提議ニ
對シテ
貴國ヨリ切實ニ和ヲ
請フト云ヒ而シテ之
カ為ニ此地ヲト相シ
テ會見スルコト、ナ
リタル以上ハ或ハ其
結果トシテ和約成ル
コトアランモ其平和
條約カ兩國皇帝陛下
ノ批准ヲ經ルニハ萬
事未定ノ景況ニシテ
其未定ノ時期ニ於テ
全部休戦スルコトハ
極メテ難事トス況

MT

MT

ヤ遠ク戦地ヲ隔テタル場所ニ於テ一時ノ休
戦ヲ決行セントスルニ於テヤ

李伯 閣下ノ所謂全部休戦云々ハ想フニ一
部休戦ニ對スル言ナラン果シテ然ラハ閣下
ハ一部休戦ヲ為シ得ヘシトノ意ナルカ

伊藤伯 閣下ハ一部ノ休戦ニ付キ提議ヲ試ミ
ントスルカ

李伯 然リ今ハ交戦中ニシテ貴國ハ何地ニ
進軍セラル、モ即チ貴國ノ戦権ニ属スルヲ
以テ或ハ全部ノ休戦ハ貴國ノ為ニ不便多カ

ランヲ慮リ一部ノ休戦ヲ提議セハ貴國ニ於
テ許諾シ易キヤト推考シタルノニ然レトモ
余ハ畢竟平和ノ回復ヲ懇願スル為ニ遠ク使
命ヲ齎シ貴政府亦相當ノ手續ヲ履テ未請ス
ルアラハ敢テ峻拒セストノ厚意ヲ示サレタ
ルニ由リ乃チ此ニ閣下ト會見スルコト、ナ
リタルニ今閣下ノ指命セラル、休戦ノ條件
ハ尤モ苛重ニシテ余ハ之ニ就キ熟考セント
スルモ衷心猶豫スル所ナキヲ得ヌ我政府カ
和ヲ請フニ切實ナルハ余ヲ簡テ貴國ニ使セ

MT

MT

レメタルノ一事ヲ以テスルモ瞭然ニシテ余
 ハ此事實ヲ外ニシテ亦我政府ノ真意ヲ表
 スル道ナキヲ知ル且余ハ昨日會見ノ劈頭
 於テ陳述スル所アリタレハ閣下ハ能ク我ノ
 誠實ヲ認メシナラン而シテ我ノ欲スル平和
 ハ決シテ一時ニ止ラス將來永遠ニ渉ルモノ
 ニシテ實ニ日清兩國ヲ以テ東洋ノ二大強國
 ト為シ兩國ノ友誼ヲシテ更ニ親厚ナラシム
 ルノ基礎ヲ奠メンコトヲ希フニアリ然ルニ
 今閣下ノ指命ニ係ル條件ヲ按スルニ假令一
 時ニモセヨ直隸省中兵畧上ノ鎖鑰地タル大
 沽天津山海關ヲ占領スヘシトノコトナリ余
 ハ現ニ直隸總督トシテ殊ニ樞要ノ地ヲ奉ケ
 テ貴國ニ質トスルハ余ノ職任上ヨリスルモ
 我政府ニ勸告シ難キハ偏ニ閣下ノ諒察ヲ乞
 ハントスル所ナリ

伊藤伯 夫レ或ハ然ラン然レトモ苟モ互ニ國
 ヲ代表シテ會見スル以上ハ各々其國ノ利害
 ヲ以テ心トシ區々一身上ノ利害ヲ念トスヘ
 カラス即チ閣下カ直隸總督タルト否ノ如キ

MT

MT

MT

820086

ハ敢テ問フヘキニ^非モサルナリ余ハ互ニ一
國ヲ代表シテ大事ヲ断スルニ於テ須ク自家
ノ利害ノ如キハ之ヲ念頭ヨリ除カサルヘカ
ラサルヲ信ス

李伯 貴諭誠ニ然リ閣下既ニ我ノ平和ヲ乞
フニ切實ナルヲ許認セラル、ニ於テハ直ニ
平和條約ヲ締結スル條件ヲ指命スルヲ得ル
カ<sup>（回復スルニ指命シテ、責任ヲ負フテ事ヲ成ルニシテ、
ノ結果ヲ見ルニ至ルニシテ）</sup>

伊藤伯 今ハ閣下ノ提議ニ應ジテ^{（休戦）}其條件ヲ指
命レタルナレハ閣下ニシテ果シテ能ク此條
件ニ服^{（サ）}ル、ナラハ直ニ平和ノ商議ニ進行
センノミ

李伯 屢々陳述スル如ク貴我兩國ノ利害ノ
關係ハ或ル點ニ於テ全然同一ナリ且積年兩
國ノ親交殊ニ篤カリシヲ以テ余ハ兩國平和
ノ回復ヲ欲スルコト急ナリ冀クハ閣下速ニ
最後^{（休戦）}平和條件ヲ指命セラシムコトヲ
伊藤伯 事兩國ノ交渉ニ関ス者ヨリ互ニ私情
ヲ挾ムヘカラス言率直ト雖モ閣下宜ク諒察
セヨ

MT

2-0067

0039

李伯 公私ノ別判然タラサルヘカラサルハ
 敢テ言ラ^待修タス然レトモ暫ク地位ヲ^易換テ余
 ノ衷心ヲ察セラレヨ余カ平安^和ヲ願フニ切ナ
 ルモ此ノ如キ苛重ノ指命ヲ甘諾スルニ躊躇
 スルハ必スシテ其故ナキニ^非ササルヲ知ラ
 レン若シ之ニ^代換フル條件他ニアラハ更ニ示
 明テ各マサレ

伊藤伯 閣下ノ言ハル、所諒察セサルニ非ス
 ト雖モ軍事ニ関スルノ約束ナレハ之ヲ措キ
 テ他ニ要ムヘキノ條件ナレ

李伯 然レトモ休戦條約ハ平和條約締結ノ
 豫備ナレハ敢テ軍事ニ関ストモ覺ヘサルナ
 リ

伊藤伯 休戦ヲ以テ結局ノ豫備トスルハ勿論
 ナリ然レトモ今日ノ事ヲ以テ結局スルニ^非
 又ス即チ一時ノ處分法タリ

李伯 既ニ一時ノ處分法ニシテ苛重ナルコ
 ト此ノ如シ余ハ如何ニ考慮スルモ容易ニ服
 従シ難キヲ憂フ閣下必シク察シ垂レ更ニ寛
 大ノ條件ヲ指命スルヲ得サルカ貴方ニシテ

MT

MT



既ニ我ノ和ヲ乞フニ切實ナルヲ認識セハ多
 少寛恕セラルヘキナリ余ニ指命スルニ此ノ
 如ク苛重ナル條件ヲ以テセスレテ寧口初
 ヲリ寛大ナル處分ヲ以テセラル、ニ於テハ
 却テ平和ヲ克復スルノ結局ニ速功アルヲ信
 セサルヲ得ス

伊藤伯 我ニ於テハ此ノ指命ヲ外ニシテ休戦
 ニ必要ナル條件アルヲ知ラス閣下若シ他ニ
 恰當ノ條件アリトセハ情ヲ貴流ヲ聞カン

李伯 余ハ既ニ誠ヲ開テ鄙見ヲ吐露ス亦一
 點ノ胸臆ニ蔽ヌ所ナシ余ニシテ貴國ニ使命
 ヲ奉スル以上ハ素ヨリ我政府ニ於テ承諾シ
 得ル限りハ必ス同意スルノ決心ヲ以テ程ニ
 上レリ閣下幸ニ余ノ衷情ヲ察セラレヨ

伊藤伯 閣下ノ誠意ハ既ニ諒スル所然レトモ
 休戦ノ請求ハ閣下ノ提出ニ係リ我ヨリハ之
 ニ應シテ其條件ヲ指命シタルナレハ若シ閣
 下此指命ニ服スル能ハストセハ交戦ヲ續ケ
 ツ、傍ラ平和ノ商議ヲ進行スルヨリ外手段
 ナシ

MT

MT

李伯 然ラハ直ニ平和條約ノ條件ヲ指命セラル、ノ準備アルカ

伊藤伯 目下閣下ノ提議ヲ問題トスルナレハ此問題ノ結局ヲ告クルマテハ他事ヲ議スルノ時機ニ非ラヌ

李伯 然ラハ假ニ休戦條件ノ指命ハ余ニ於テ從フ能ハサルモノトレテ……、殊ニ閣下ヨリノ答文ニモ「休戦ヲ約スルコトヲ以テ媾和條件ノ妥局ヲ結フニ必須ノ要義ト視做スコト能ハスト雖モトアレハ……、

暫ク問題ヲ措キ直ニ平和ノ商議ニ進務セハ

閣下ハ更ニ其條件ヲ指命セラル、カ

伊藤伯 閣下果シテ休戦問題ヲ撤回セラル、ナラハ平和ノ商議ニ進移スヘシ

李伯 休戦問題ニ於ケル閣下ヨリノ指命ハ何分苛重ニシテ服從シ難シト思考スレハ余ハ暫ク之ヲ問題外ニ置キ更ニ媾和條件ヲ指命セラレンコトヲ希望ス

伊藤伯 閣下休戦問題ヲ撤回セラレタル後ハ媾和條件ヲ指命スヘシ

MT

MT

2-0067

0042

李伯 既ニ屢々續述スル如ク余ハ胸襟ヲ披
瀝シテ閣下ニ對スルモ此ノ如キ苛重ノ指命
ハ到底服シ難シト明言セサルヲ得サルハ余
ノ最モ遺憾トスル所ナリ

伊藤伯 然レトモ既ニ休戦ノ懇願アルニ於テ
ハ我ハ之ニ必要トスルノ條件ヲ指命セサル
ヲ得ス而シテ貴方ニ於テ承諾セラレサルニ
於テハ交戦中ニ於テ媾和ヲ議スルヨリ外ナ
キハ猶前言ノ如シ閣下宜ク熟慮スヘシ

李伯 貴意ヲ領ス然レトモ閣下カ貴國皇帝
陛下ノ政府ニ盡サル、ト均シク余モ亦我皇
帝陛下ノ政府ノ為ニ微力ヲ盡サ、ルヘカラ
ス而シテ互ニ一國ノ利害ヲ重々セサルヘカ
ラサルコト既ニ高見ノ在リ抑々今回ノ
事タル貴國ハ開戦ノ初ヨリ陸海軍ノ準備
整然タリシニ及シ我國ニ在テハ全ク其準備
ナク為ニ戦フ毎ニ大敗ヲ取リタリ今更之ヲ
繰返スモ益ナク且其敗辱ノ後ニ於テ切實ニ
和ヲ乞フ者ト雖モ猶我ノ名譽ヲ保テ得ル程
度迄ハ貴國ノ寛恕ヲ願ハサルヲ得ス蓋シ

MT

MT

貴國ニハ我帝國ヲ全ク覆滅セサルヘカラス
 トノ不仁ハ無カラン若シ萬一ニモ之レアラ
 ハ人情ノ常トシテ永遠ニ復讐ヲ念ヒ假令一
 旦平和回復ノ後ト雖モ其惡感情ハ深ク心底
 ニ印シテ遂ニ拭フヘカラサルニ至ラン換言
 スレハ貴國民ノ或ル程度ニ満足シ其以上ヲ
 踰テ我ヲ虐待セラレサルコトヲ誠實懇求セ
 カルヲ得ヌ是レ余ノ敢テ心事ヲ訴フルナリ
 今閣下ノ指命セラル、本浩天津山海関ニ在
 ル我兵ヲ撤シテ貴軍ニ引渡スコトノ如キハ

MT

是レ北洋ノ鎖鑰地ヲ舉ケテ貴方ノ掌握ニ委
 ネ我帝國ハ事實上ニ一掃セラレタルニ異ナ
 ラス又若シ夫レ此ノ如キ尤モ苛重ナル條件
 ヲ以テスルヨリモ一層寛大ナル條件ヲ以テ
 休戦ヲ許諾セラル、ナラハ余ハ却テ結局和
 議成ルノ迅速ナルヲ信ス元來今回ノ交戦ハ
 事端ヲ朝鮮ニ發ス而シテ朝鮮ハ業已ニ貴軍
 ノ占領スル所トナリ今ヤ進テ我滿洲ヲ蹂躪
 セラレ我ハ陸海共ニ大敗ヲ受ケテ茲ニ和議
 ヲ乞フコト、ナレリ閣下曠昔ヲ回想シ我ノ

MT

誠實ヲ觀察シテ今一層寛洪ナル處分法ヲ考
慮セラレンコトヲ望ム

伊藤伯 今更過去ノ事實ヲ喋々スルノ必要ナ
シ況ヤ交戦ノ原因ニ溯テ云々スルノ時機ニ
非^非ラスト雖モ我^非ノ前途ノ和好ヲ重スル為ニ
此ニ會見スルヲ承諾スルモノナリ故ニ閣下
ヨリノ提議ニ應スルニ我ノ至當ト思惟スル
條件ヲ以テシタルモ素ヨリ此等ノ要地ヲ占
領スルハ事一時ニ属シ決シテ永久ニ涉ラサ
ルヘシ且之ヲ占領スルモ敢テ破壊スルニモ
又^非ラズ即チ和議成ル^迄ノ間ノ保證タルニ
過キサレハ適當ノ時機ニ達セハ貴國ニ還付
スルモノニアラスヤ

MT

李伯 然ウハ太沽天津山海関ノ三^箇所^ノ質
トスルノ條件ハ変更セストスルモ既ニ和議
成ル^迄ノ保證タレハ貴軍ハ直ニ之ヲ占領
スルコトヲ宥メ萬一和議成ラサルトキ^初
テ之ヲ占領スルコトノ約束ヲ休戦ノ保證ト
スルヲ得サルカ

MT

伊藤伯 否々既ニ休戦ノ保證トシテ占領スル

以上ハ和議ノ成ルト否トハ、毫モ関係スル所ニ^非ラズ此レ等ノ場所ハ休戦ノ條件トシテ精命シタルナレハ直ニ占領スルコト敢テ論ヲ待タス若シ貴院ノ如ク和議成ラサル時ニ於テ初^始テ占領スルナラハ何ソ此ノ如キノ約束ヲ必要トセンヤ即チ和議ノ成ラサル時ハ交戦ノ續ク時ナルヲ以テ我ハ鋒鏑ヲ以テ争ヒ戦権ヲ以テ占領スルニ於テ何モノカ能ク之ヲ妨クヘケン^ト耶

李伯 (暫ク儼然ノ後) 然ラハ進テ平和條件ヲ

MT

示明スルヲ得ラル、カ

伊藤伯 閣下ハ目下ノ問題タル休戦ノ請求ヲ

如何セントスルカ

李伯 休戦問題ハ暫ク措キタシ

伊藤伯 休戦ヲ暫ク問題外ニ措クコトハ、許諾

シ難シ何トナレハ更ニ進テ媾和商議ニ移ル

モ其中間ニ於テ再ヒ休戦問題ヲ提出セラル

ルトキハ如何トモスヘカラサレハナリ

李伯 (暫ク黙考ノ後) 過刻全部休戦スルノ困

難ナリトノ貴院ヲ得タリ若シ一局部チラハ

MT

直ニ休戦スルヲ得ハシトノ高慮ナルヤ

伊藤伯 閣下ヨリ休戦ノ懇求アリタルニ由リ

閣下ノ参考ニ資スル為メ此ノ如キ大軍ヲ出

シタル場合ニ於テ遠隔ノ地ヨリ全部ノ休戦

ヲ命スルハ事實上殊ニ困難アルコトヲ一言

シタルナリ而シテ一局部ノ休戦ハ余等決シ

テ其必要ヲ見ス

李伯 一局部ノ休戦モ困難ナリトノ貴意カ

伊藤伯 平和ノ終局ヲ擔保トシテ局部ノ休戦

ハ更ニ其効果ナシト余ハ信ス

李伯 尚明確ニシテ度々ハ局部ノ休戦ナラハ

或ハ其商議ノ如何ニ因リ締約ヲ許サル、カ

ト云フ一事ナリ

伊藤伯 局部ノ休戦ハ一般戦地ノ外ニ於テ行

ハス例ハ互ニ戦使ヲ送ル場合ニ於テ暫ク

鋒鏑ヲ收ムルノ類ノ如シ此ノ故ニ遠ク戦地

ヨリ隔リタル場所ニ於テ全局ニ涉リ事ヲ議

スルニ當リテハ一局部ノ休戦ヲ商議スルモ

何等効果ナシ既ニ閣下ノ知ラル、如ク我軍

ハ深ク進テ各地ニ入り連亘幾百里ナルヲ以

MT

MT



ヲ一時ニ全局ノ休戦ヲ實行スル談容易ナラ
ンヤ

李伯 (暫ク黙考ノ後) 然ラハ寧口速ニ媾和條
件ヲ指命セラル、ヲ得ルカ

伊藤伯 再三同一ノ貴問ニ接ス余亦之ニ對シ
テ同一ノ答酬ヲ再三スルノ外ナシ元來休戦
ノ請求ハ平和終局ノ豫備ノ為ニ閣下ノ提出
セラレタル所ナレハ苟モ閣下ニ於テ此請求
ヲ撤回セラレサル間ハ先ツ以テ休戦問題ニ
就キ商議セサルヘカラス

MT

李伯 然レトモ閣下ノ指命セラレタル條件
ハ非常ニ苛重ナルヲ以テ余ニ於テ如何トモ
スヘカラス寧口媾和商議ニ移ラハ却テ進歩
ヲ見ンモ知ルヘカラスレハ先ツ閣下カ平和
條件ヲ指命セラル、ヤ否ヲ聞カンコトヲ欲ス
伊藤伯 適當ノ時機ニ達セハ固ヨリ其條件ヲ
指命スヘキモ閣下ハ其前ニ於テ休戦ノ請求
ヲ全ク放棄セラル、カ
李伯 必スレモ然ラスト雖モ閣下ノ指命ニ
係ル條件ハ我ニ於テ至難ナレハ他ニ條件ア

MT

レハ更ニ示明ヲ乞ヒ然ラサレハ暫ク問題外ニ措カンコトヲ望ム

伊藤伯 我ニ於テハ他ニ指命スヘキ條件ナキハ前未言フ所ノ如シ

李伯 然ラハ進テ結局ノ媾和商議ニ移ランコトヲ乞フ

伊藤伯 請フ暫ク待テ既ニ閣下ヨリ覺書ヲ提供セラレタルニ因リ我ハ之ニ對シテ本日答復スル所アリ而シテ閣下ハ初メ熟慮スルノ後ニ^非サレハ確答スルヲ得スト明言セラ

レタルヲ以テ我ハ其考慮ノ時間ヲ借サンコトヲ約シタリ然ルニ今ニ及テハ翻テ到底承服レ難シト云ハル其前後ノ言齟齬甚シ余ハ閣下ニ向テ我ノ指命ニ従フ能ハスンハ速ニ覺書ヲ撤回セラル、カ將夕断然我ノ指命ヲ峻拒セラル、カ又ハ我ノ指示セル條件ヲ承諾セラル、カ三者其一ヲ擇ハレンコトヲ切ニ要求セサルヲ得ス

李伯 然ラハ貴論、如ク直ニ媾和ノ商議ニ進ムヲ得ヘキカ

MT

MT

伊藤伯 閣下ニ於テ公然其一^{ニ就テ}宣言セラル、

ナラハ余ハ何時ニテモ之ニ應ヌヘシ

李伯 平和條件ニ付テハ十分ノ準備アルカ

伊藤伯 然リ

李伯 先ツ覺書ヲ撤回セハ閣下ハ直ニ其條

件ヲ指命セラル、カ

伊藤伯 愈々覺書ヲ撤回セラルタル後ニ於テ

明言セン

李伯 然ラハ公然書面ヲ以テ休戰條件ニハ

取從シ難キ旨ヲ宣言シ且他ノ條件ヲ以テ之

ニ換フルコトヲ得スンハ直ニ平和商議ヲ開

カレンコトヲ懇願スト云ハ、貴意ニ適スル

カ

伊藤伯 再三述ヘタル如ク明白ニ了解セラレ

ンコトヲ望ム乃チ余カ覺書ニ對スル答文ヲ

朗讀シタルトキ閣下ハ十分考慮ノ後答フハ

レト明言セラレタルニ由リ余ハ閣下ニ借ス

ニ適當ノ時間ヲ以テセントシタリ然ルニ今

ハ絶テ考慮ノコトヲ言ハス漫ニ條件ノ苛重

ヲ鳴カル、ハ如何余ハ猶モ閣下ニ向テ明言

MT

MT

セントス閣下ハ當初云ハレタル如ク我ノ答
復ニ付キ更ニ熟慮セラル、カ將々断々手ト
シテ此席ニ於テ諾否ヲ決答セラル、カト
李伯 (黙考ノ後)然ラハ考慮ノ為メ数日間ノ
猶豫ヲ與ヘラレタシ

伊藤伯 数日間トハ、幾日ノ意ナルカ

李伯 一週日間ニテハ如何

伊藤伯 一週日間ハ長キニ過ク

李伯 余ハ之ニ對スル確答ヲ了ヘ而ル後媾
和商議ニ移ラント欲ス

MT

伊藤伯 勿論ナリ先ツ休戦問題ヲ撤回セラル
ルカ又我ヨリ指命シタル條件ヲ承諾セラル
ルカ若クハ峻拒セラル、カ確定ノ後ニ^非ラ
サレハ平和商議ニ進移スル能ハス然ラサレ
ハ平和商議中ニ休戦問題ノ再燃スル虞アレ
ハナリ

李伯 貴意了解セリ然レトモ假令平和商議
中ニ休戦問題ヲ再ニ提出スルモ閣下ハ再ニ
此ノ如キ苛重ナル條件ヲ以テ指命セラルヘ
キヲ以テ其レ等ノ点ニ付テハ貴意ヲ勞セラ

MT

レスレテ可ナリ(皆哄笑ス)

(尚語ヲ継テ)猶豫期限ハ四日間ニテハ如何

伊藤伯 今日ノ事^内中外注目ス希クハ一日モ速

ニ決定スル所アラントラ 仍テ余ハ限ルニ

三日間ヲ以テセントス

李伯 何レニセヨ貴意ニ從フノ外ナシ唯々

條件ノ苛重ナルコト此ノ如キニ至テハ如何

トモシ難シ閣下別ニ高案ナキカ

伊藤伯 我ニ於テハ蓋シ是レヨリ寛大ノ道ナ

シト固信ス閣下力之ヲ以テ苛重トセラル

ハ貴我意見ノ異同ニシテ余ハ深ク遺憾トス
ルノミ

李伯 我ヨリノ確答ハ特使ヲ以テ提供スハ

ケレハ其時次回會合ノ日時ヲ示サレタシ兎

ニ角考慮ヲ盡シタル上特使ヲ差出スヘシ閣

下願クハ眼光ヲ大局ニ放テ寛洪雅量ヲ以テ

我ノ實行シ得ヘキ限リニ於テ事ノ妥善ヲ見

ルニ至ラシメラレシコトヲ今重テ此ニ切實

懇願ス

(會見此、終ル時ニ午後四時十分)

MT

MT

○ 會見要録第三面 — 三月廿四日午後三時 藤野樓上 格

當役我出席者官氏名左ノ如シ

全權辦理查伯爵 伊藤博文 （欽差頭等一等） 全權大臣 南穀伯 李鴻章

全上 子爵 陸奥宗元 参議官 李經羲

内閣書記官長 伊東代治 参贊官 羅豐祿

外務書記官 井上勝助 （参贊官） 伍廷芳

外務查秘書記官 中田敦義 （参贊官） 馬建忠

外務省翻譯官 陸奥廣吉 史翻譯官 羅庚齡

（吾と握手禮作^{（ヲ施シ）}り坐定^{（シテ）}アリテ後）

李伯 本日ハ天氣殊ニ麗朗ナリ

伊藤伯 然リ此地ノ氣候ハ閣下ノ健康ニ適スルヤ否

李伯 尤ニ快適ニ聞ク貴國ハ春季ニ雨多シト果シテ然ル^{（カ）}

伊藤伯 未^{（レ）}テ雨節ニ至ラザルナリ

李伯 貴國ノ霖雨ハ數日ニ亘ト聞ク果シテ然ルカ

伊藤伯 然リ所謂梅天ニ數日ノ霖雨ナリ貴國北部ニ

於テハ雨多カラザルカ如シ

李伯 然リ北部地方ニハ雨多カラスト雖モ貴曆六月以後ニ

至レハ雨フルト廣ニナリ

（暫クシテ）本日ハ過日御指命ニ対シ更ニ答文ヲ致シ

MT

MT

フリ仮名及び下リヲ附ス及ハス

テ齎シテレハ此席ニ於テ幸ニ朗讀スルヲ許サルカ
伊藤伯 諾ス

(此時李伯ハ漢文ヲ取テ伊藤伯ニ渡シ其英譯文ヲ羅
豐祿ニ授ク羅伊藤伯ノ許諾ヲ經テ代リテ朗讀ス漢
文ハ左ノ如シ)

大清帝國大皇帝欽差頭等全權大臣披閱大日本帝
國大皇帝欽差全權辦理大臣所復傳戰節畧内要
款情形萬難照辦殊為抱歉本大臣來此誠心議
和以為商議和約時暫行停戰實於兩國体面權
利均屬有益故有本月二十四日之節畧本大臣意謂
所請之案於理極合而於各國交涉通例亦甚相符
今貴大臣未能遽以為然而本大臣盡心議和之始願
從未稍減以期兩國和局之早底於成也

(此間伊藤陸奥兩大臣伊東書記官長ハ羅豐祿英
文朗讀ヲ聞キ且漢英文ヲ回讀ス)

伊藤伯 此受面ニ依レハ過日提出セラレタル休戰ノ懇請全
然拋棄セラレハ似テ果シテ然ルカ

李伯 休戰ノ懇請ハ即チ拋棄セルトス然レトモ媾和ヲ商
議カ實ナルハ過日來數條述スル如クニシテ終始論
ルエトナク却テ速ニ其條件ヲ指命セラレシエトヲ希

MT

MT

望不(思公)

伊藤伯

意アリ今日ノ形勢ハ既ニ閣下カ未ク貴國ヲ奪セカル

前ニ於テ料知セラル所而シテ知ヲ議スルハ獨リ

閣下一身ノ希望セラル所ナルミナラス貴國政府亦

之ヲ切望セラル所ナルヘシト雖モ尚ホ十分ヲ解セシ

トヲ欲ス

李伯

素ヨリ貴國ヲ辱クスルヲ要セズ早ク貴國ト和局ヲ結ハシ

コトハ尤モ余ノ希望スル所ナルミナラス實ニ滿廷ノ希望

スル所ナリ閣下ハ本使ノ地位ニ付キ熟知セラレシ余カ齡

古稀ヲ越エテ遠ク貴國ニ使命ヲ奉スルモノ豈他ヲモヤ

閣下若シ走レ余ヲ前來セシメタル我政府ノ意向ト欽テ

此命ヲ奉承セル余ニ事トヲ推サレナハ我政府ガ如何

ニ誠ニ披テ知ヲ請フモノナルカヲ予解セラレシ而シテ余

此事實ヲ外ニシテ亦我政府ノ誠衷ヲ表明スル道アル

ヲ知ラス

伊藤伯

高説ノ如クナラハ苟モ此席上ニ於テ商議決定シテ所

ノモハ悉ク誠實ニ履踐セラルヘキヲ信ス果シテ然レ

カ

李伯

素ヨリ然リ何ヲ貴慮ヲ煩サレ

伊藤伯

然レトモ余ハ貴國外交歴史中多少知所ナリ而

MT

MT

3

2-0067

0055

レテ既往事實ニ徴スルニ往々且他國ト締結シテ
 ルモノニテ實行セラレサリレコトアリ是ヲ以テ余
 事ヲ議スルニ當リ異日紛糾ヲ防ク為ニ意ヲ凝シ思
 ヲ致シ最モ慎重ヲ加ヘサルヘカラス本木^{イキ}臣等我皇帝
 陛下ノ信任ヲ辱ケレテ閣下ト此ニ會見レ國ヲ代表
 シテ事ヲ議シ事ヲ決スルノ重責ヲ負フ以上其商
 議決定ナル所ノ事項ハ必ス實際ニ履踐セサルヘ
 カラス断シテ一片紙約ヲラレムヘカラサルナリ余商
 議ノ初ニ當リ閣下ガ十分此事ヲ鑑ニシテ席ニ臨マ
 レシコトヲ望ミ而シテ苟モ商議決定シタル事項ハ必
 ス實効ヲ顯シ以テ君王ノ信任ニ奉答セサルヘカラス閣
 下亦果シテ其結約ヲ履踐スルノ誠實ヲ有セラル、
 ナラハ先ツ余ガ誠衷ヲ諒察シレ而シテ後十分介意
 ヲ以テ會商スル所アラシコトヲ深ク希望ス

MT

李伯 貴諭詢ニ然リ今閣下ハ我外交歴史上往々且外國
 ト立約シテ實行セサルコトアリト云ハル、モ閣下ノ了
 知セラル、如ク元來我國ハ外國交渉事例ニ習レス
 為ニテ結約調印シタルモノニテ實行シ得サ
 リレ事實全ク之ニキニアラスト雖^{大信}モ用港以降控
 テハ凡ソ外國ト結約シタルモノニテ批准セラレサルハ

MT

ナレ唯ク伊犁事件ニ并露國上締結シテ條約ノ
批准モレザリレ例アルニ其他何等ノ條約ト雖
モ皆實効ヲ顯ハサルハナレ伊犁條約モ且批
准ヲ拒ミテ後妥協ヲ経テ竟ニ實行ヲ見ルニ至
レリ

伊藤伯 伊犁事件ノ外猶ホアラン英國トノ條約ヨリト
モレレノ時モ亦實行セラレサルモノナリ然レトモ
今ハ詳細論スルノ要ナシ先ニ角大任ヲ慮ケテ此
ニ會見スル以上其商議決定スル所ノ事項悉
ク完全ニ實行セシヤルヘカラス萬一ニモ單ニ紙

上ノ和約トナルルキナトアラハ獨リ兩國全權責任
ヲ曠クスルノミナラス實ニ兩國ノ名譽ヲ毀傷ス
ルモノナリ而レテ兩國間ニ於ケル戦争ノ慘毒ハ
將來消磨スル期ナク兩國人民ハ益々不幸ニ陷
ラントス願フニ今此ニ會見レテ和議ヲ商定スル
所以ノモノハ唯ク戦争ヲ止ムルノミナラス前途ニ向テ
從來ヨリモ一層ノ輯睦ヲ加ヘントスルニ在リ余ハ
閣下ノ知ラレル如ク我皇帝陛下ノ信任ヲ辱ケレ
現ニ内閣ニ首班トシテ一身内外ノ重責ニ膺若
而レテ今回特ニ勅命ヲ以テ全權辦理大臣ニハ

MT

MT

②

5

2-0067

0057

苟モ其約諾シテ先事項ニシテ實効ナキナレバ此
點ニ就テハ閣下寸分ノ煩慮ヲ要セサルナリ

李伯 閣下モ既ニ熟知ナルナラレ余ハ貴國ニ向テ前屢
我皇帝陛下ヨリ謁ヲ賜ヒ且速ニ知有リ信ヒ戰爭ノ
害毒ヲ極ヒ貴國ニ對シテハ從來ヨリモ更ニ交誼ヲ
篤クスヘキノ命ヲ受ケ且之カ為ニ十分ナル全權ヲ授
ケラレタルヲ余ハ前ニ面ノ會見ニ於テ余ノ微衷ハ伏
藏ナク閣下ノ清聰ヲ語レ而シテ我ノ誠意ヲ認識
セラレシコトヲ閣下ニ乞ヘリ唯タ此ハ亟カニ平和條
件ヲ指命セラレタレ余ハ十分考慮ヲ盡シテ閣下

MT

商議セリコトヲ望ム

伊藤伯 貴意ヲ領ス^因極テ明日ヨリ直ニ媾和商議ニ進移
セシ

李伯 多謝ス明日ハ午前カ將タ午後カ

伊藤伯 閣下ノ便宜ニ任スヘシ

李伯 然ラハ明日午前十時ヲ以テ會見セハ如何

伊藤伯 可ナリ

李伯 既ニ閣下ニ於テ十分我ノ誠意ヲ認メテ媾和商議
ニ進移スルコトヲ許諾セラレタルニ甘テハ豫メ一言ヲ
寄セテ閣下ノ参考ヲ乞ハントスルモノアリ其ハ他ニテ

MT

ラス即チ我清國ハ既ニ幾多各國ト條約スル所アル
ハ今面兩國間ニ於ケル商議決定ノ結果ヨリ延テ條約
在國ノ利害ニ關係セシメサルコト是ナリ商議
言ハルソ此席ニ於テ商議決定スル所ノモ我
レト締約セル各國ノ利害ニ影響セシメサルコトヲ
欲スルヨリ閣下亦之ヲ念頭ニ置キ以テ事ニ商議
ニ從ハレシコトヲ希望ニ堪ヘサルナリ

伊藤伯 貴意ヲ知ス然レトモ今日ノ事唯ク日清兩國間
ニ止リ毫モ他國ニ關係セサルハ亦論ヲ俟テサル所ナ
リ

MT

李伯 兎ニ南明日午前十時ヲ期シテ十分高談ヲ乞ハシ閣
下ハ其時ニ於テ直ニ平和條件ヲ指命セラル、ヲ得ル

伊藤伯 然リ凡^總其時ニ於テセシ

李伯 今面ノ事唯ク貴我兩國ノ間ニ止リ兩國直接ニ會
同商議シ亦他國ノ干渉ヲ容カサルノ高談^譯級服ス

伊藤伯 素ヨリ兩國間ニ生レタル事ハ兩國自ラ商議決定
スヘキナリ亦何ソ他國ノ容喙ヲ待テズヤ

李伯 閣下ニシテ貴國ノ代表セラレ不肖余ニシテ我國代表
表シテ這般ノ大事ヲ商議スルニ於テハ必ず各高

MT

ツ見ルに至ルヲ疑ハカルナリ若シ余ニシテ其功ヲ全クスル
能ハスレハ悲クハ何人ヲ以テスルモ結局ヲ望ムヘカラスナ
ン

伊藤伯 (微笑シテ) 若シ閣下ニシテ各館スル能ハスレハ貴

國皇帝陛下親ヲ屬駕ヲ枉ケルノ外ナシ...

改洲ノ例ヲ以テ云ハハ... (李伯等皆微笑ス)

李伯 我國ニ於テハ皇帝親ヲ平和條約ヲ締結シタル例ナ

シ恭親王如キモ直接ニ外國事ニ關係シ訂約シテ

ルコトナレハ相当ノ高官ヲ以テ其衝ニ当ラレム

(話頭一轉シテ) 余ハ深ク信ス戦争ヲ決シテ兩國交

世界

渉ノ常態ニシテ非カレタ^因レテ速ニ其常態ニ復シ以テ

愈々其交誼ヲ敦厚ニシテコトヲ欲ス

伊藤伯 素ヨリ交戦ハ我ノ主眼ニ^非ラス閣下亦深ク諒察

セヨ

李伯 余カ本國ニ在テ常ニ平和主義ヲ取り又熱ニ平和ヲ

主張スル者ナルハ閣下ノ熟知セラル^所ナリ今固^如キ

キ余ハ未ダ戦端ヲ開カサル時ニ於テ頻リニ平和

ヲ主張シタルモ不幸ニシテ用ナラレサリキ而シテ

一^名知破レ戦交エル後ト維モ今日極ニ至ラスシテ

各結ノ道ナキニ^非サリシナラシ余ハ其時機ヲ過

MT

MT

キテ今日ニ^及置ヘルヲ遺憾トスルヤ甚シ

伊藤伯 戦争ハ危事決シテ愉快ノモノニ^非ズ

李伯 然リ度^機ハ早ク戦争ノ害毒ヲ免レン

伊藤伯 然レトモ閣下ハ元来^將武官ニ^非ズヤ

李伯 余ハ^將武官ト雖モ尤モ平和ヲ愛スル者此輩ニ付テ^曾

テ故ク^レト將軍来遊ノ時互ニ肺肝ヲ吐露シタル

コトアリ

伊藤伯 誠ニ閣下ノ言如シ然レトモ余ハ元来一文官ニ

李伯 頻ニ突ヲ漏シマ^レ余ク^レト將軍ト快談再三及ビ彼

ヲ以テ一世ノ知ヒト思ヘリ將軍尚ホ天壽ヲ保タス余

同シク七十有ニテ^リ彼ハ南北戦争ニ殊功ヲ樹テ余

ハ長髮賊ノ討伐ニ功者^建彼ト余トハ東西隔絶ニ雖

モ其武功ノ閱歴ニ於テ亦平和主義ニ於テ殆ト相同

シ而レテ彼ハ國內外ヲ問ハス戦争ノ慘毒ヲ認ムル

者余亦彼ト同一ノ意見ヲ持ス

伊藤伯 誰カ初^メヨリ戦争ヲ欲セシヤ唯々其事局ノ勢

ニ^為テ國ト國トノカノ衝突スルニ

李伯 然リ國ト國トノカノ衝突ハ止ムヲ得スト雖モ速ニ衝

突ヲ免ル^レ道ヲ講セサルヘカラス

伊藤伯 笑ヒ^テ戦争ナレハ此上ノ幸福ナレ第一巨額ノ

MT

MT

軍費ヲ要セザルノ利アリ(皆笑フ)

李伯

算ニ然リ(兵器彈藥糧食)其費用ハ非常ノ巨

額ニ至リ一國ノ財政ニ影響スル大ナリ余ハ既ニ高

齡ニ達シタレハ最早血ヲ見ルヲ欲セス少壯政治家ハ

往々主戰論ヲ主張スルモ余ハ断シテ取ラス祈ル

唯々國家ノ無事ノミ

伊藤伯

閣下ノ意表或ハ然ラシト雖モ今固ノ戰爭ハ貴國ニ

於テ誠ニ避ケント欲セハ決シテ避ケ能ハサリシニ(非)

ス如何セシ貴國其盡スヘキノ道ヲ盡サルヨリ

事茲ニ至リタルナリ

MT

李伯

余ハ当初余ノ意見ヲ北京政府ニ致シタルモ中外ノ

形勢ヲ洞觀スル能ハサル北京ノ顯官等ハ不幸ニ

モ余ノ意見ヲ排斥シテ採ラス為ニ竟ニ今日ノ事

局ヲ見ルニ至レリ余ハ之ヲ以テ終生ノ恨事トス

伊藤伯 我カ政府ハ戰端未タ開ケサルノ前事兩國涉

ルヲ以テ兩國協同シテ処措スル所アラシトシテ

ルモ貴國政府ハ謂レナク我カ好意ノ提議ヲ

峻拒セラレタルヨリ止ムヲ得ス兵馬相見ル

ノ極ニ至レリ當時貴國政府カ閣下ノ意見

ヲ採用シタラシニハ今日ノ衝突ハ見ルニ及ハサリ

MT

16

2-0067

0062

シナキレ惜美哉

李伯 實ニ遺憾千萬ナリ北京政府ノ政治家ハ唯々
主戰以テ能事トシ極メテ外國ノ事情ニ疎ク
徒ニ圭角ヲ現レ事ノ山滿ヲ求メスレテ却テ破
綻ヲ顧ミズ誠ニ憂慮スルニ堪ヘキ平和黨
ノ領袖タル恭親王ノ如キハ中外ノ形勢ヲ知悉ス
ルアリト雖モ親王ハ實ニ近頃廟議ニ卷シ貴
國ト邊端ヲ啓ケル當時ニ在テハ毫モ預知セラ
レザリキ

伊藤伯 凡ソ事端ヲ生セサル前ニハ妥協スル難カラスト

MT

維モ一旦破裂ヲ見ルニ至レハ易々タル事ト雖
モ非常ノ困難ヲ感スルヲ常トス例ヘハ新ニ歩
ヲ起ス者アラレニ其道途尙未近通トキハ踵
ヲ回シテ旧地位ニ復スル敢テ難事ニ入スト維
モ歩ニ步轉ニ轉前進シ^{和親}其道途既^改達ナ
ルトキハ容易ニ旧地位ニ復歸スルヲ得サルカ
如シ

李伯 閣下ノ比喻尤モ當ヲ得キ然レトモ閣下ハ一身
ヲ以テ内外ノ重責ニ膺ラレ一切ノ政權閣下掌中
ニ存ス若シ支レ閣下ニシテ飽クテ旧地位ニ復

MT

11

帰ヲ欲セラル、ナラハ假令道途遠ニ維モ其原
状ニ復スル蓋シ亦至難ノ業ニヤ^非ナルヘシ

伊藤伯 然レトモ旧地位ヲ距ル豈啻ニ千百里ノミナリ

李伯 ^{おのり} 地位ニ居ルニシテ、更ニ歩ク所ニシヨリ、
等々^{おのり} 旧地^{おのり} 仲^{おのり} 後^{おのり} 事^{おのり} 未^{おのり} 終^{おのり} 許^{おのり} 事^{おのり} 復^{おのり} 得^{おのり} 事^{おのり}

ヲ満足セヨリシヨリ、懇請セサルヲ得、若シ貴國
ニ於テ飽^{おのり} 貴國ノ意思ヲ貫徹セシトセラル、

ナラハ事体益、困難ニ陥リ、遂ニ我帝國ハ覆滅

セサルヲ得サルニ至ルヘシ閣下願クハ熟察ヲ賜ヘ

伊藤伯 戦争必スシモ邦國ヲ覆滅スルモノナラニヤ既

前ニモ云ヘル如ク畢竟戦争ハ國ト國トノ間ニ於

テカノ衝突ナリ而シテ國民ト國民トノ衝突ニ

非^{おのり} 殊ニ我占領地ニ在ル貴國人民ノ如キ業

順ニシテ能ク労働ニ堪ユ何ソ覆滅ノ虞アリ

李伯 貴軍ノ占領地ニ在ル我人民ハ皆貧困ニシテ衣食

ニ汲タスル也

伊藤伯 概シテ清國人ハ勤勉ト柔順ト其朝鮮人

ニ優ル業ナリ

ニ並バシ

李伯 朝鮮人ハ一般ニ懶惰ナレハ或ハ然ル感モアラシ

伊藤伯 我軍カ貴國北部ニ於テ使用スル貴國ノ勞

MT

MT

欠

彼者ハ尤モ柔順ニシテ能ク勞ニ堪エトノ毅ニ接

セリ我軍亦已ニ臺灣ニ進ミタルガ未ク南部ヨ

リノ消息ヲ得サレハ其實況ツ知リ難シ下はモ爾

李伯（笑）臺灣ノ字ヲ聞テ驚愕ノ色自ラ面ニ顯ルモ故ク

ニ冷然タル態度ヲ裝テ閣下知レル如ク臺灣ニハ

内地人民ト人トノ三種アリテ内地人ハ多ク廣東

ヨリ移住シタル者ニテ概シテ肥大強壯ナリ其割

合ヲ云ハ即チ内地ヨリ移住セル者十ノ四ニ居リ

小人其大ツク過日休戦ノ懇請ヲ試ミタルニ閣

下カ容易ニ許容セラレサリレハ蓋シ臺灣ニ送

兵セラレカ為メナキ

伊藤伯（微笑シテ）決シテ然ルニラス（非）

李伯貴國若シ臺灣ヲ占領セルハオラハ英國ハ黙過セ

サラレカ如何

伊藤伯 英國ハ固ヨリ局外中立ナレハ何等容喙スルノ

謂レナシ

李伯英國ノ局外中立ハ勿論ナルモ其已レノ利害（關係）ハ

ナリ

伊藤伯（笑）利害ノ關係ハ英國ニ（非）スレテ即貴

國ナラスヤ

MT

MT

15

2-0067

0065

李伯 否、臺灣、香港ニ近接スルヲ以テナリ

伊藤伯 如何ニ香港ニ近接スルモ我ハ敵國ヨリ外攻撃ス

ルコトナレ

李伯 英國ノ意向ハ我國ニ於テ有スル外何レノ國ト雖臺灣

湾ヲ占領スルヲ善ハサルニ在ラレ

伊藤伯 (微笑シテ) 獨リ臺灣ニ限ラス貴國ノ版圖内ノ

何レノ部分ヲ問ハス若シ讓与セント云ハ何レノ國

ト雖モ誰カ之ヲ辭スルモノナラ^{ニヤ}

李伯 (笑ヒク) 何レノ部分ト雖モ自ラ喜テ割讓スルモノナシ

實ニ止ムヲ得サルモ出ツ、、、先年臺灣事件ニ付

MT

故大久保辦理大臣北京ニ前來セラレタル時言ハレタル

コトアリ曰ク日清兩國東洋ノ二大強國ニシテ其關係

ハ輔車唇齒ニ當ナラスト實ニ然リ當時臺灣人ハ

貴國人ヲ殘害シタルニ相違ナシト雖モ兩國ヨリ云

ハハ畢竟兒童ノ喧嘩ノミ而シテ双方ノ父母出テ

之ヲ宥メタルカ如ク兩國ハ鋒鏑ヲ交ユルニ至ラスレテ

能ク事局ヲ收メ貴國ハ速ニ軍ヲ回シ臺灣并華

ニ事ナキヲ得ナリ、、、閣下ハ單ニ今回ノ事ヲ為メ

此地ニ滞留セラルカ又此地ニ在テ内外ノ政務見

ラルカ意フニ今回ノ事極メテ重大、余ハ十分考慮

MT

シ盡シタル後ニ於テ酬答セシトス隨テ日子ヲ費シ閣
下ニ對シテ恐懼措カスト雖モ請フ事ニ諒愜アレ

伊藤伯 凡ソ國事ニ関スル詔勅及一切ノ命令ハ我皇帝
陛下ノ親裁ヲ經テ副署セサルヘカラス其他内外

ノ政務ヲ統轄スルノ任ニ在レハ繁忙在状スヘカラ
スト雖モ一般ノ常務ニ至テハ各主務大臣ニ於テ

便宜処理ス唯ク事件ノ重大ナルモノニ至テハ決テ
本大臣ニ待ツツ以テ躬此地ニルモ更ニ聞暇ナ

李伯 常務ハ既ニ各大臣ニ委任セラレタルナラハ今回ノ事
多ク十分考慮ノ時間ヲ与ヘラレシコトヲ切望ス

伊藤伯 各主務大臣ニ於テ執行スル事務ハ日常恒例
ノコトノミ一々 皇帝陛下ノ勅裁ヲ經ヘキモノニ

至テハ悉ク余ノ意見ヲ必要トスルヲ以テ何地
ニ在ルモ皆其所在地ニ於テ処辨セサルヲ得ス

而シテ 勅裁ヲ仰クニハ陛下大本營所在地
先廣島ニ於テセサルヘカラスカ故ニ余執ル

所ノ事務ハ頗ル廣汎ニシテ又甚ク繁劇ナリ
因テ今面ノ事ノ成ルヘク速ニ商議決定シ

以テ其大任ヲ全クセシコトヲ期ス

MT

MT

17

2-0067

0067

李伯商議多々要スル日子多ク事ヲ閣下ヨリ指命
セシル條件ノ難易ニ關係スヘシ元來事体重大
ルヲ以テ十分考慮ヲ盡サレハ勢ヒ日子ヲ要ス而シ
テ指命ノ條件困難ナルトキハ更ニ時間ヲ要スル
虞アルヲ先レス

伊藤伯 然レトモ嫌疑商議ハ既ニ事件ノ性質ニ於テ
快速決定セサルヘカラサルモノナリ平時ニ在リテ
事々處スル常規ニ拘束セラレ為メ日子ヲ費ス
コトアルヘキモ此如キ非常ノ場合ニ在テハ成ル
ヘク速ニ事旨ヲ結ビ盾々辯論レテ徒ニ遅々
スヘキニテ^非ラス余ハ互ニ十分ノ決断ヲ以テ相對シ
真摯誠實速ニ商定セシコトヲ望ム

李伯詢ニ然リ、聞ク所ニ依レハ貴國皇帝陛下ハ近日^鳳
^筆西京ニ移サセ玉フト聞ク果シテ然ルカ

伊藤伯 然リ不日大龍ヲ西京ニ回シ玉フナラシ然レトモ
果シテ何日頃御發聲ナルカハ余ク未定ナリ
蓋シ廣島ノ氣候ハ適好ナラス為メ御動座
アラセラル^ハ惟モ京都ト廣島トハ鐵路十時間
ニシテ遠スルヲ得ル道程ナレハ孰レト渡ラセ玉フ
モ格別ノ差ナシ

MT

MT

15

2-0067

0068

會見要録第四回

四月一日午前十時
藤野樓上にて

當彼我出席者官氏名表如し

全權辦理大臣子爵陸奥宗光 参議官 李経方

内閣書記官長 伊東代治 参贊官 伍廷芳

外務書記官 井上勝之助 参贊官 羅豊禄

外務大臣秘書官 中田敦義 参贊官 馬建忠

外務省翻譯官 陸奥康吉

外務省翻譯官 植原陳政

(例ノ如ク互ニ握手ノ禮ヲ施シ坐定マリテ後)

陸奥子 本日李伯ノ容體如何引續キ快氣ニ赴

カル、ナラン

李経方 幸ニ日ニ快復全ク治癒ヲ見ル蓋シ甚

夕速カラサルヘシ

陸奥子 日々佐藤博士ヨリ容體ヲ報告スルニ

依リ余等李伯カ順次平癒セラル、ヲ聞キ欣

喜何ソ堪ヘン、閣下一身上ニ関シ昨日

伊藤伯ヨリ内議ヲ試ミラレタルコトハ閣下

已ニ知ラセラレシ此事ニ就テ早速米國公使

ヲ介シテ北京政府ヘ電報シ置キタレハ必ス

今日日中ニハ復電ニ接スヘシト思考ス

MT

MT

李経芳 西閣下ノ厚意謝スル所ヲ知ラス李伯
 ヨリモ本日余カ拜芝スル時格別ニ谢意ヲ致
 シ且李伯カ負傷ノ為ニ本日出席シ得サルシ
 深ク遺憾トスル旨ヲ傳ヘヨト囑セラレタリ
 陸奥子 李伯カ出席スルヲ得ラレサルハ余等
 ノ尤モ遺憾トスル所然レトモ今ニ及テハ之
 ヲ言フモ詮ナシ^因テ昨日伊藤伯ヨリ特ニ懷
 議セラレタルナリ凡ソ今後會同商議スル事
 項ニシテ殊ニ重大ナルモノハ閣下ヲ經由シ
 テ李伯ノ確答ヲ待ツアルモ其他ハ隨時閣下
 ノ答復ヲ煩ハサントス閣下宜ク思フ致シ其
 閣下ニ於テ為シ得ラル、モノハ速ニ回答セ
 ラレンコトヲ望ム
 李経芳^方 貴意ヲ領ス、余限り為シ得ヘキモノハ
 成ルヘク即席拜答シ乃父ノ意見ヲ問フヘキ
 モノハ問フテ後拜答スルコト、セン
 陸奥子 本日閣下ト此ニ會談スルハ即チ媾和
 條件ヲ商議セントスルニ^先チ先ツ諸般ノ手
 續ニ属スル事項ヲ決定センカ為メナリ此ノ
 如ク豫メ手續ヲ商定スルハ唐ニ形式上ノ必

MT

MT

2-0067

0072

要ノ為メノミナラス成ルヘク事局ノ結了シ
快速ニスルノ便宜アルニ由ル余ハ此目的ヲ
以テ漸次閣下ト妥協ヲ試ミント欲ス

李経方^方 談判ノ手續ニ関シ親シク貴説ヲ聽ク
ヲ得ルハ余ノ欣幸トスル所而シテ閣下ハ教
ユルニ書面ヲ以テセラル、カ將タ口頭ヲ以
テセラル、カ

陸奥子 余ハ口頭ヲ以テ閣下ニ告クル所アラ
ントス閣下領クハ其為レ得ル限り當席ニ於
テ答酬セウレンコトヲ

李経方^方 敬承セリ

陸奥子 媾和條件ノ大體ノ趣意ハ夙ニ米國公
使ヲ経テ貴國政府ニ致シタレハ憶フニ閣下
ハ後報ノ前ニ於テ了知セラレタラン而シテ
我政府ハ貴政府カ確ニ領承セラレタルノ保
證ヲ得テ乃チ閣下等ト會見スルコト、為レ
リ其所謂大體ノ要綱ハ僅カニ四個條ニ過キ
スト雖モ尚ホ他ニ重大ナル事項アリ又事體
稍、輕キモノ幾多アルヲ以テ凡ソ此等ノ條
項ハ個羅シテ之ヲ條約體ニ列舉シタリ且此

MT

MT

等ノ事項ヲ分チ叙列スルニ於テハ更ニ數十
 個條ノ多キニ至ルヘシ故ニ余ハ此等ノ事項
 ヲ商議スルニハ如何ナル方法ニ依ルヲ以テ
 便宜トスル等ヲ熟考シタルニ即チ一條項ツ
 ツ商議決定スルヲ以テ結局ヲ速カナラシム
 ル所以ナリト信ス例ハ一條項ヲ提出セハ
 先ツ其條項ヲ商定シ而ル後ニ^非少サレハ他
 ノ條項ニ移ラサルナリ貴意果シテ如何
 李^方廷^方 今閣下ノ示諭セラル、一條項毎ニ商
 議決定スルノ方法ハ全ク異議ナシト雖モ先
 ツ全體ヲ通院スルノ後ニ於テ逐次毎條項ヲ
 商議スルヲ許サレタシ
 陸奥子 全體ノ條項ヲ通院シテ後チ毎條項ニ
 就キ商議スルト初メヨリ一條項ツ、ヲ議定
 スルトハ異同アリ余ノ意見ハ一條項ヲ提出
 レタルトキハ先ツ其條項ヲ商定スルニ^非中^非
 サレハ敢テ他ノ問題ニ移ラサルニ^在アリ何ト
 ナレハ過日休戦問題ノ時實驗シタル如ク甲
 ノ條項ヲ議スルニ當リ乙丙ノ條項ヲ混同シ
 徒ニ錯雜ヲ招キテ大體上ノ進歩ヲ妨クルコ

MT

MT



ト大ナレハナリ畢竟全體ノ通院ヲ先ニスル
 ハ事ノ決着速キニ似テ却テ避シ假シ一條項
 ツ、議決スルモ逐次決定シ了ラハ即チ全體
 ヲ通院決定シタルト何ノ異^ナカラン余ハ唯
 ヲ迂路ヲ避ケテ捷徑ヲ擇ハシコトヲ欲ス
 李経^方 已ニ平和條約ト云ハハ其重大無比而
 レテ大體ノ條項ヲ通讀スルニ非^非サレハ準
 據^據茫漠為メニ歧^岐レテ幾多細目ニ論及スルヲ
 得^得サルノ不便アリ^ナ凡ソ事物ハ各部ヨリ成立
 スルヲ以テ大體ニ通シテ考慮スルニ非^非サレ
 ハ各部ヲ決定スルニ由ナク殊ニ平和條約ノ
 如キハ各部互ニ牽連スルヲ以テ先ツ全體ヲ
 通院セサレハ一條一項ニ就キ意見ヲ表明ス
 ルヲ得ス既ニ 貴國皇帝陛下ハ特ニ二十一
 日間ノ休戦ヲ恩許シ玉ヘリ^固余ハ此期間
 ニ於テ速ニ事局ヲ結ハシコトヲ欲スルニ付
 却テ先ツ全部ノ院讀ヲ許サレシコトヲ冀フ
 モノナリ

陸奥子 各條項毎ニ商議決定スルモ貴意ノ如
 ク結局全部ヲ示明スルコト、ナラン若シ最

MT

MT

初全部ヲ示明スルニ於テハ大體議ノ為ニ多
 時ヲ要^セハルヲ得ス但シ孰レノ方法ヲ取ル
 モ均ク利害アルヘシト雖モ大體ノ辯論ニ時
 日ヲ徒費センヨリハ寧ロ一條一項毎ニ商定
 スルヲ可トス若シ閣下ニシテ各條項毎ニ商
 定スルヲ嫌ハル、ナラハ余ハ敢テ異議ヲ容
 レスト雖モ二十一日ノ休戦期ハ既ニ二日ヲ
 過キタリ幸ニ平和條約茲ニ成ルト假定スル
 モ互ニ調印批准ヲ經ル^ルニハ更ニ幾日ヲ
 要ス而シテ其實行ヲ見ルニハ猶若干ノ日子
 ヲ要スヘシ^固我々ハ其及ハン限り歩武ヲ
 急ニセスンハアルヘカラス殊ニ平和條件ノ
 主義大體ハ貴國政府ノ了知スル所我々ハ其
 詳細ニ涉リ早ク事ノ結局ヲ見ント欲ス否レ
 ハ假令平和商議ヲ進行スルモ休戦ノ期^漸
 ク經過シ其満期ニ垂ントレテ猶妥協ヲ見ル
 ニ至ラス匆忙措ク所ヲ知ラサル如キ窮境ニ
 陥ラン^(倭指シテ日數ヲ算ヘツ)幸ニ十日間
 ヲ以テ平和條約成ルト假定スルモ批准其他
 ノ手續ノ為メト之カ實行ノ準備ノ為ニ要ス

MT

MT

ル時間ハ僅々七八日ヲ餘スニ過キス是レ余
 カ尤モ前程ヲ急キ且各條項毎ニ順次決定セ
 ンコトヲ主張スル所以ナリト雖モ既ニ貴院
 ノ趣モアレハ余ハ全部ヲ示明スルヲ拒マサ
 ルハシ就テハ貴意ニ應シ今夜又ハ明日ヲ以
 テ全部ノ條件ヲ示明セン若シ然ルトキハ閣
 下ハ之ニ對シ三日ヲ限り確答スルヲ得ルカ
 李経方 已ニ我全權大臣李伯ヨリ西閣下ニ宣
 言シタル如ク我政府カ平和ヲ求ムルニ切實
 ナルハ屢々尊聽ニ達シタル所今ヤ幸ニ休戦

MT

ノ恩許ヲ得タルハ余等ハ此期未タ滿タサル
 ノ時ニ於テ諸般ノ事項ヲ商定スルヲ熱望ス
 ル者ナルヲ十分了解セラレンコトヲ欲ス固
 ヲリ平和條件ハ事重大ナルヲ以テ尤モ熟考
 セサルヘカウサレハ先ツ全部ヲ通シテ閱讀
 スルヲ許サレタシ各條項ハ互ニ自ラ相照解
 スルモノナレハ全體ヲ先キニレテ後各條項
 ニ及フヲ以テ商議ヲ進捗スヘシト思考ス
 陸奥子 速ニ妥協ヲ見シコトヲ欲スレハコソ
 閣下ノ注意ヲ促シタルナリ然レトモ條項中

MT

ニハ難易細大ノ差別アリテ例ハ捕虜ノ交
換ノ如キハ即時決定スルヲ得ヘクシテ一旦
和成ルトキハ何人カ異論セン而シテ他ノ重
大ナル條項ニ付テハ多少ノ考慮ヲ要スヘキ
モノアランニ之ヲ混同シテ商議スルニ於テ
ハ勢ニ溢滞ヲ免レサルヘシ余ハ商議ノ進歩
ノ為ニ各條項別個ニ決定スルヲ欲スト雖モ
己ニ閣下ノ希望モアレハ一應全部通院セシ
ムヘシ余カ事ノ速決ヲ冀フハ獨リ日本ノ為
メノミニ^非ラス貴國現時ノ形勢ニ於テ一日
ヲ進クスレハ即チ一日ノ不利益ヲ増スモノ
ナルコトヲ十分了解セラレンコトヲ望ム
李^方廷秀 其點ニ付テハ貴院ト愚見トハ符節^全シ
合スト雖モ己ニ前ニ云ヘル如ク平和條約ノ
重且大ナルハ他ニ比スヘキモノナク各條項
ハ互ニ密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ先ツ全部
ヲ通シテ示明セラレタル後ニ^非テサレハ各
條項ニ涉ルヲ得ス是レ余カ各條項毎ニ決定
スルハ却テ多時間ヲ要スト云フ所以ナリ貴
院捕虜交換ノ如キ極メテ簡易ナル問題ニシ

MT

MT

2-0067

0078

テ立刻ノ間商定スルヲ得ヘキモ之ヲ實行ス
ルニ當リテハ互ニ送還スル等ノ手續ヲモ決
定セサルヘカラス故ニ問題ハ簡易ト雖モ實
際ノ手数相同シクシテ他ノ重要ナル問題ト
擇フ所アラス

陸奥子 先ツ全部ヲ通シテ商議スルコト、セ
ハ勢ヒ甲ノ條項ヲ議スル間乙ノ條項ニ涉ル
ノ混雜ヲ免レサレハ余ハ議事ノ進歩ノ為ニ
一條頂ツ、商定センコトヲ欲シタルモ己ニ
閣下ニ於テ全部通過ヲ望マル、以上ハ敢テ

前説ヲ主張セス就テハ我ニ於テ全部ヲ示明
シタルトキハ閣下ハ三日ヲ期シテ確答スル
ヲ得ルカ尤モ此三日ハ法律上ノ期限ニ非ラ
スト雖モ休戦期間ノ二十一日ハ確然動カス
ヘカラサルモノナレハ或ハ三日間ヲ短シト
セラル、ナラハ四日間トスルモ妨ケナシ免
ニ角全部示明ノ後ニ於テ確答セラルヘキ期
限ハ豫メ決定セサルヘカラサルモノナリ
李経方 閣下カ豫メ其期限ヲ決定セントセウ
ル、ノ希望ハ亦余ノ抱懐スル所ナリ既ニ

MT

MT

貴國皇帝陛下ヨリ平和ノ結局ヲ得ル目的シ
 以テ休戦ヲ恩許セラレタル以上閣下等カ條
 件ノ全部ヲ示明セラル、ニ於テハ余等ハ成
 ルヘク神速ニ事ヲ商議シ其即時ニ決定スヘ
 キモノハ則チ決定シ其北京政府ニ協議スヘ
 キモノハ即チ協議シ一ニ國際法ノ例規ニ依
 準レテ折衝往復セントス少ク貴意ヲ安ンセ
 ラレテ可ナリ

陸奥子 條件ノ全部ヲ示明スルコトニ今日ニ
 至ルマテ特ニ相約シタルコトヲ記憶セスト

雖モ貴意ニ應シ指命スルヲ辞セス而シテ一
 タヒ示明シタル以上閣下等ハ何日間ヲ期シ
 テ確答セラル、カ是レ余カ尤モ聞カンコト
 ヲ欲スル所ナリ余カ前ニ云ヘル三日間ヲ短
 シトセラル、ナラハ更ニ四日間ニ改ムルモ
 可ナリ要ハ唯々本議開始初ニ於テ其期限ヲ
 確定スルニ在リ

李経方 其事ニ就テハ余ニ十分ナル信用ヲ措
 カレンコトヲ冀望ス余ハ永ク貴國ニ駐劄シ
 公務上ニ於テハ屢々閣下ト交渉スルノ榮譽

MT

MT

ヲ有シタリ余カ這般ノ大事ヲ商定スルニ當
リ成ルヘク結局ノ快速ヲ欲スルハ固ヨリ^辯辦
ヲ待タサル所^閣閣下乞フ信ヲ余カ一言ニ置カ
レンコトシ

陸奥子^閣閣下ヲ信用スルコト今更言フヲ要セ
ス而レテ又貴意ヲ了知スト雖モ凡ソ這般ノ
條約ヲ訂結スルニ付テハ双方相當ノ準備ヲ
要ス故ニ其前程ヲ急ニセサルヘカラサルハ
瞭然タリ苟モ兩國全權大臣會同商議スト云
ハ、事兩國ニ涉リ僅々タル二十一日ノ休戰

限

期^限ハ獨リ貴國ヲ羈束スルノミナラス亦我
國ヲモ羈束スルモノナルヲ以テ其時ノ切迫
セサル前ニ於テ諸般ノ事項ヲ商定シ批准具
他ノ手續ニ關スル猶豫ヲモ積算セサルヘカ
ラス余ハ貴我兩國ノ為ニ尤モ其歩武ヲ急ニ
セサルヘカラサルヲ信ス

李^方李^方貴^方貴^方説^方説^方ノ三日間或ハ四日間ヲ期シ云々
ノ意義余未タ十分了解セサルニ付敢テ尊嚴
ヲ冒シ重テ教ヲ乞ハントス閣下ヨリ平和條
件ノ全部ヲ指命セラレタル以上ハ余等之ニ

MT

MT

對シ三日間ヲ期シテ或ハ諾或ハ否シ以テ答
酬スルノ意カ將タ此間熟考セリト云フヲ以
テ答酬スルヲ得ルノ意カ

陸奥子 例ハ十箇條ノ條件アリトセンニ此
等ノ條項ハ悉ク貴國ニ於テ同意セラル、モ
ノナルヲ信ス而シテ此中某條ハ即時承諾シ
某條ハ猶考慮シ某條ハ云々改訂セラレタシ
ト云フノ確答ヲ三日若クハ四日間ニ於テセ
ラレンコトヲ望ム若シ全部條件ヲ示明シタ
ル後ニ於テ名ヲ熟考ニ借リテ幾日ヲ曠クス

ル如キコトアラハ閣下ハ如何セントスルカ
李経方 西閣下ヨリ指命セラル、凡ソ十箇條
件ハ我ニ取リテハ疑モナク重大無比ノモノ
ナラン李伯カ遠ク使命ヲ齎シテ此ニ閣下等
ト會見スル所以ノモノ亦親ク西閣下ニ就キ
尊慮ノ存スル所ヲ聽カンカ為メナリ而シテ
平和ヲ回復スルハ我國ノ誠實懇望スル所ナ
ルモ其成約ノ迅速ニ至テハ實ニ條件ノ難易
如何ニ因ルコトヲ諒察セラレタレシ余等日夜
苦慮スル唯タ是レノニ其事件ノ輕キモノハ

MT

MT

ナニ

2-0067

0082

即時決答スルヲ得ルモ其重大ナル事項ニ就
テハ相當ノ熟考ヲ費サ、ルヲ得ヌ

陸奥子 簡短ニ云ハ、全部條件ヲ示明シタル後
三日若クハ四日ヲ期シテ某條ハ同意トカ某條
ハ不同意トカ或ハ斯々修改セラレタカノ
確答ヲ得ンコトヲ欲ヌ唯々事體重大ノ故ヲ以
テ辞ヲ熟考ニ託シ徒ラニ日子ヲ空過スル如キア
ラハ我ニ於テ断レテ肯諾セサル所ナリ尚ホ此
主意ヲ正確ニスル為メニ伊東書記官長ヲシテ
一片文書ヲ作ラシメ井上書記官ヲシテ英語シ

MT

以テ通譯セシメタリ(其全文左ノ如シ)

余ノ既ニ明言セシ所ヲ約スレハ三日若ク
ハ四日ヲ期シ貴國全權大臣ハ我ノ指命セ
シ條件ニ付全體ニ同意セラル、欲若クハ
某項ハ同意シ某項ハ更ニ修正ヲ求ムル欲
執レトモ貴大臣ノ意見ヲ表示セラレンコ
トヲ望ム

李経男 本日ハ代理トシテ此席ニ列シタルナ
レハ帰館後乃父ニ示シ確答スヘシ

MT

陸奥子 余ノ意見ハ即今此文書ニ於テ明白ナ

リ尚ホ閣下等ノ了解ヲ易カラシムル為メ附
スルニ英譯ヲ以テシ又別ニ清譯モアリ……
……閣下等三日若クハ四日ヲ期シテ確答ス
ルコトヲ明言セラル、ナラハ今晚ニモ條件
ヲ示明セン

李経方 條件ノ文書ハ既ニ成レルモノアルカ
陸奥子 然リ而カモ條約ノ体裁ヲ以テシ本書
ハ和文ナルモ英譯ヲ附レ且不完全ナカラ清
譯ヲモ添ヘタリ

李経方 日英清ノ三語ヲ以テ記セラレタリト
云フカ

陸奥子 然リ余意フニ貴國必ス之ニ同意セラ
レン而レテ直ニ鈐署^印経ルニ便ナル為メ既
ニ清寫マテモ成レリ

李経方 清譯モ既ニ成レルカ
陸奥子 然リ楠原ニ命シテ譯^セシメタリ蓋シ
貴覽ヲ経ハ行文字句ノ不完全トセラル、モ
ノアウンカ意義ニ於テ二十シ尤モ本書ハ和
文ニシテ譯本ハ英文トス

李経方 帰館後李伯ニ此事ヲ告々伯亦ニ同意

MT

MT

2-0067

0084

セハ本日午後二時^迄ニ確答セン然ルトキハ今晚ニモ全部ノ條件ヲ指命セラル、カ
 陸奥子 然リ李伯ノ回答ニシテ果シテ満足ノモノナラフンニハ直ニ示明スルヲ躊躇セヌ
 李経^方 余李伯ノ回答ヲ齎サハ貴方ヨリハ井上書記官ヲ以テ條件ヲ示明セラル、カ……
 ……本日午後ノ回答ハ書面ヲ以テスヘキカ
 将々余自ラ使スヘキカ(此時陸奥子ヨリ回答文ノ難題ヲ)
 陸奥子 其レ等ハ貴方ノ便宜ニ一任シ閣下若シ自ラ来ラル、ナラハ余亦此所ニ待タサルヲ得ヌ要ハ今貴覽ヲ経タル文書ノ意義ニ對シ決答セラレトハ是レリ……尚ホ前言ツクハ四日ヲ限リテ確答ヲ得ントスル主意ハ全部條件中恐クハ多少修正ノ希望ヲモ提出セラルヘシ然ルトキハ往復折衝ノ間凡ソ十日間ヲ費^ササン而シテ殘餘ノ日數ハ即チ八日間ナリ我方ニ於テハ廣島ニ於テ裁可批准ヲ経ルヲ得ルモ貴方ニ在テハ此等ノ手續皆北京ニ於テセサルヘカラス萬一ニモ休戦期

MT

MT

2-0067

0085

限
間ニ於テ悉ク事局ヲ了スル能ハスンハ日
来ノ苦心全無水泡ニ帰スルノ遺憾アリ是レ
余カ閣下ニ向テ切實ニ前程ヲ急ニセサルハ
カラスト言フ所以ナリ

李経方 厚意感謝乞フ伏藏ナク一言スルヲ許
セ運搬ノ事其成否迅速ニ條件ノ難易如何
ニ因ル而シテ余等カ重責ヲ負フテ此ニ使来
シ日夜焦思苦慮ニ堪ヘサルモノハ即貴國指命
ノ寛苛如何ト云フノ一事ナリ

陸奥子 李伯ノ責任ノ重大ナル今更言ヲ須井
ナル所然レトモ我ニ在テ伊藤伯及余ノ負フ
所ノ重責ハ李伯ト相均レ而シテ速ニ妥協シ
得ントスルノ希望ハ貴我異同ナシト雖モ既
ニ事兩國ニ渉ル以上ハ兩國政府ノ意見合一
スルニアラサレハ得テ其結局ヲ望ムハカラ
ス(高シテ亦事ヲ難シトシテハ其ノ難シキハ余等ノ力ニ依リテモ不
可ナリ)兩國全權ノ會商ヲ要スル所以亦此ト存ス
李経方 閣下ノ芳情謝スル所ヲ知ラス余ハ誠
心安協ノ速ニナランコトヲ祈ル
陸奥子 貴意洵ニ然リ其結局ヲ快速ニセンコ
トハ余ノ冀望スル所ナリ

MT

MT

2-0067

0086

李経方 休戦ニ付テハ電信ヲ以テ夫々戦地司令官ニ訓令セラレタルカ

陸奥子 然リ電信ノ通スル地ハ電信ヲ以テ命令シ電信不通ノ地ハ確答スルヲ得サルモ相當ノ手段ヲ以テ命令シタルナレハ必ス夫々到達シタルナラン

李経方 電信ナキ地ハ最モ速ナル方法ヲ以テ命令セラル、答ナレハ既ニ悉ク到達シタルナラント思考ス如何

陸奥子 勿論然ラン、貴國ニ於テ專馬ヲ以テ報ス云々トアル所謂專馬ハ馬ノミニ限ルカ

李経方 (微笑シテ) 唯夕人ハ馬ノ駿逸ニ及ハスト云フヨリ来リ電信ノ設ナキトキハ馬ヲ外ニシテ亦早便ノ具ナキニ由レリ

陸奥子 今貴覽ニ供シタル文書ノ譯文成リタルハ(此時橋本漢譯ヲ提出ス)携歸セラル、モ妨ケナシ、之ニ對スル決答ハ大體ヲ包括シテ諾否ヲ促スニアラスシテ各條項ノ諾否修正ノ意見ヲ表白セラレンコトヲ望

MT

MT



ムニ在リ其三日間ト四日間トノ差ハ貴方ノ便宜ニ任スヘシ

李経方 孰レ後刻マテニ多分書面ヲ以テ回答セン余自ラ使スルハ易々タルモ閣下ヲシテ待受ケシムルハ恐悚ノ至リナリ

陸奥子 兎漢小山豊太郎ハ無期徒刑ニ處セラレタリ宣告書ノ謄本ヲ要セラル、ナラハ送致セン

李経方 願クハ謄本ヲ送ラレタシ……過日中田秘書官ヨリ伍廷芳マテ彈丸三箇ヲ送ラレ李伯ハ紀念ノ為メ本國ニ携歸セント云ハ

陸奥子 彈丸ハ折角ノ貴需ニ付止ムヲ得ヌ李伯ニ致シタルモ實ハ尤モ不愉快ナル紀念物ナレハ余ハ携歸セラル、タ欲セヌ然レトモ此ノ不愉快ナル紀念物ト共ニ兩國永遠平和ノ基礎タル文書ヲ貴國ニ齎シ還ラル、ナラハ度^銭ハ相償フテ餘リアラシ^カ李経方 實ニ然リ……李伯カ彈丸ヲ本國ニ携歸セントスルノ本意ハ永ク之ヲ子孫ニ傳

MT

MT

2-0067

0088

